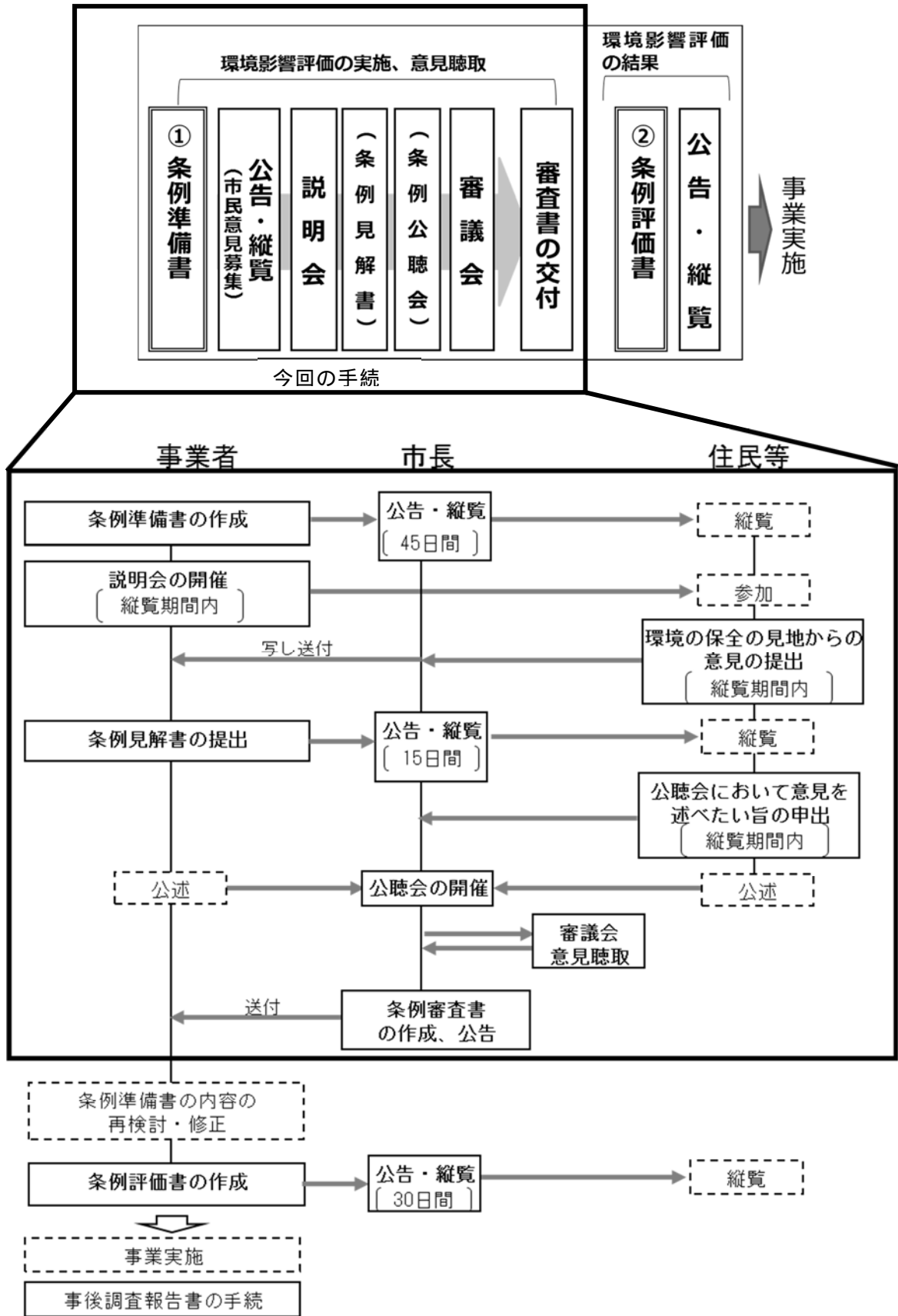


川崎新！アリーナシティ・プロジェクトに係る
条例環境影響評価準備書

令和6年3月

株式会社ディー・エヌ・エー
京浜急行電鉄株式会社

川崎市環境影響評価に関する条例に基づく手続（第2種行為）



条例準備書・・・意見を聴くための準備として、環境影響の調査、予測及び評価結果等を記載するもの
 条例見解書・・・意見の概要及び事業者の見解を記載するもの
 条例評価書・・・手続経過を踏まえ作成する環境影響評価結果

目 次

第1章 指定開発行為の概要	1
1 指定開発行為者	1
2 指定開発行為の名称及び種類	1
3 指定開発行為を実施する区域	1
4 指定開発行為の目的、事業立案の経緯等及び内容	5
(1) 指定開発行為の目的及び事業立案の経緯等	5
(2) 計画地及びその周辺における整備方針等	6
(3) 環境配慮の内容等	8
(4) 土地利用計画	9
(5) 建築計画等	11
(6) 緑化計画	26
(7) 道路整備計画	32
(8) 交通計画	33
(9) 供給施設計画	40
(10) 排水施設計画	44
(11) 熱源計画	44
(12) 廃棄物処理計画	46
(13) 防・消火計画	46
(14) 施工計画	49
第2章 計画地及びその周辺地域の概況並びに環境の特性	59
1 計画地及びその周辺地域の概況	59
(1) 気象の状況	61
(2) 地象の状況	61
(3) 水象の状況	61
(4) 植物、動物の状況	61
(5) 人口、産業の状況	62
(6) 土地利用状況	66
(7) 交通、運輸の状況	73
(8) 公共施設等の状況	81
(9) 史跡・文化財の状況	86
(10) 公害等の状況	88
(11) 法令等の状況	99

2	計画地及びその周辺地域の環境の特性	104
(1)	立地特性	104
(2)	環境の特性	104
第3章	環境影響評価項目の選定等	109
1	環境影響要因の抽出	109
2	環境影響評価項目の選定	109
3	環境配慮項目	118
(1)	環境配慮項目の選定	118
(2)	環境配慮方針	119
第4章	環境影響評価	121
1	地球環境	121
1.1	温室効果ガス	121
2	大気	137
2.1	大気質	137
3	土壌汚染	201
3.1	土壌汚染	201
4	騒音・振動・低周波音	209
4.1	騒音	209
4.2	振動	249
5	廃棄物等	273
5.1	一般廃棄物	273
5.2	産業廃棄物	279
5.3	建設発生土	297
6	緑	301
6.1	緑の質	301
6.2	緑の量	323
7	景観	333
7.1	景観、圧迫感	333
8	構造物の影響	365
8.1	日照障害	365
8.2	テレビ受信障害	377
8.3	風害	391
9	地域交通	413
9.1	交通安全、交通混雑	413

第5章 環境保全のための措置	467
第6章 環境配慮項目に関する措置	475
第7章 環境影響の総合的な評価	477
第8章 事後調査計画	489
第9章 関係地域の範囲	491
第10章 その他	493
1 指定開発行為の実施に必要な許認可等の種類	493
2 条例環境影響評価準備書の作成者及び業務受託者の名称及び所在地	493
(1) 条例環境影響評価準備書の作成者	493
(2) 業務受託者	493
3 事業内容等に関する問い合わせ窓口	493
4 参考とした資料の目録	494

資料編

第 1 章 指定開発行為の概要

第1章 指定開発行為の概要

1 指定開発行為者

名 称：株式会社ディー・エヌ・エー
代 表 者：代表取締役社長兼CEO 岡村 信悟
住 所：東京都渋谷区渋谷二丁目24番12号

名 称：京浜急行電鉄株式会社
代 表 者：取締役社長 川俣 幸宏
住 所：横浜市西区高島1丁目2番8号

2 指定開発行為の名称及び種類

名 称：川崎新！アリーナシティ・プロジェクト
種 類：高層建築物の新設（第2種行為）
大規模建築物の新設（第2種行為）
都市計画法第4条第12項に規定する開発行為（第3種行為）
商業施設の新設（第3種行為）

3 指定開発行為を実施する区域

指定開発行為を実施する区域（以下「計画地」という。）は写真1-1及び図1-1(1)～(2)に示すとおり、川崎市川崎区の北西部に位置する約15,360㎡の区域であり、現況は自動車教習所、事務所ビル、駐車場、道路等として利用されている^{注)}。また、計画地周辺では、計画地南側の隣接する区域において「(仮称)京急川崎駅西口地区第一種市街地再開発事業」が計画されている（図1-1(2)参照）。

主な道路網としては、計画地北側に国道409号、東側に国道15号（第一京浜）、西側から南側に川崎府中線（主要地方道9号）等が通っている。

鉄道網としては、計画地東側に京浜急行本線及び京浜急行大師線、西側にJR東海道本線及びJR京浜東北線が通っている。最寄り駅は、京急川崎駅である。

計画地の位置及び面積は、以下に示すとおりである。

位 置：川崎市川崎区駅前本町25番地ほか（写真1-1、図1-1(1)～(2)参照）

区域面積：約15,360㎡（商業地域）

アリーナ敷地（開発区域）：約13,640㎡

三角地敷地：約 830㎡

道路用地：約 890㎡

現 況：自動車教習所、事務所ビル、駐車場、道路等^{注)}

注) 自動車教習所の建築物等は土地所有者である株式会社 KANTO モーターズスクールが、駐車場は「(仮称)京急川崎駅西口地区第一種市街地再開発事業」の施行者である京急川崎駅西口地区市街地再開発準備組合が撤去することとなっている。

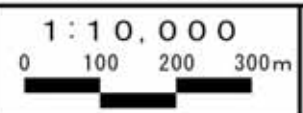


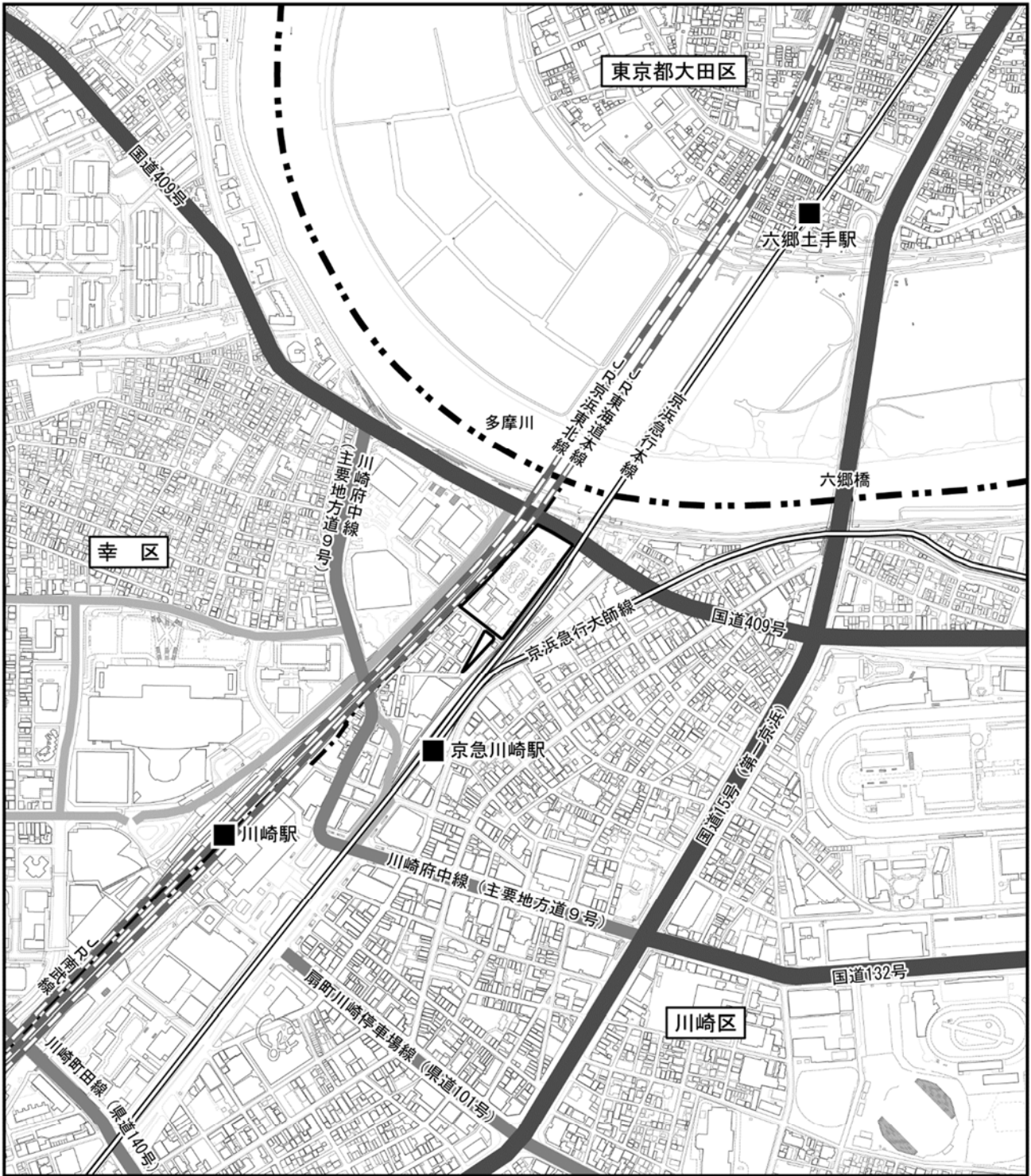
凡 例

- | | | | |
|---|-----|---|----------|
|  | 計画地 |  | 国 道 |
|  | 都県界 |  | 主要地方道・県道 |
|  | 区 界 | | |

資料：「川崎市空中写真（垂直写真）令和3年1月1日撮影」（川崎市）

写真1-1 空中写真





凡 例









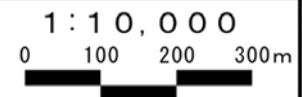
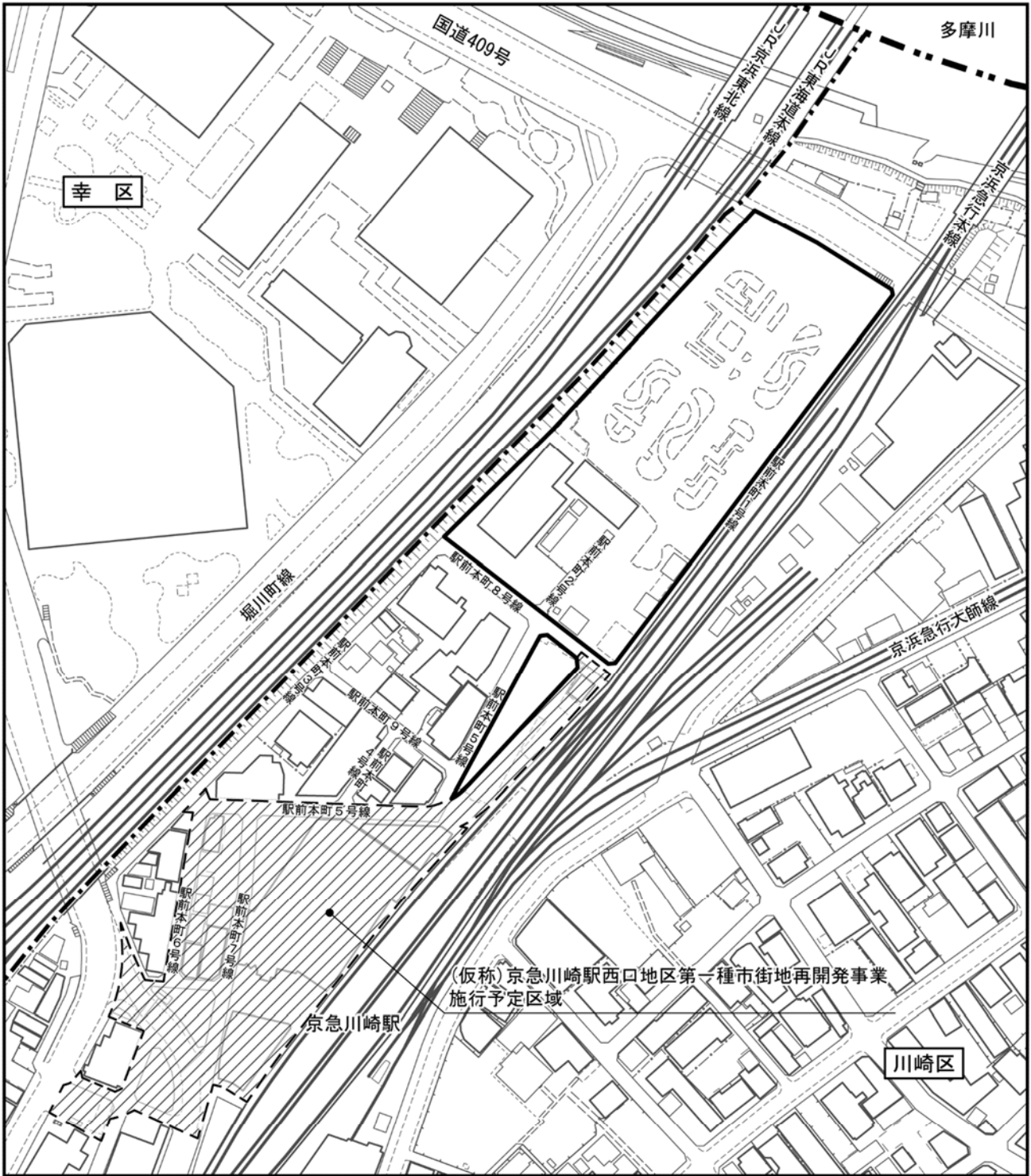
- | | | | |
|---|-----|---|----------|
|  | 計画地 |  | 国 道 |
|  | 都県界 |  | 主要地方道・県道 |
|  | 区 界 |  | 主な市道 |
| | |  | 鉄 道 |
| | |  | 駅 |

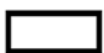


図1-1(1) 計画地位置図 (広域)





凡 例



計画地



(仮称)京急川崎駅西口地区第一種市街地再開発事業
施行予定区域

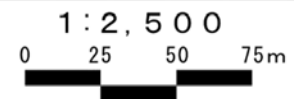


都県界



区 界

図1-1(2) 計画地位置図 (詳細)



4 指定開発行為の目的、事業立案の経緯等及び内容

(1) 指定開発行為の目的及び事業立案の経緯等

川崎駅周辺地区は、市の中心的な広域拠点であり、計画地が位置する京急川崎駅周辺地区については、羽田空港へのアクセス等が優れた立地特性を有し、国際化に対応した広域拠点にふさわしい都市機能の集積と良好な市街地環境の形成を図ることを目指している。

計画地は、京急川崎駅西口の北側に位置し、北側に多摩川、東側に京急電鉄高架線路、西側にJR線路に挟まれた立地である。隣接する区域で計画されている「(仮称)京急川崎駅西口地区第一種市街地再開発事業」(以下「再開発事業」という。)や再開発事業に伴う地区内道路整備などの都市機能の更新に合わせ、老朽化した建築物の更新や未利用地の有効活用を促進し、魅力的な市街地を形成するとともに、計画地の特性を踏まえ、京急川崎駅周辺のポテンシャルを最大限活かしながら、競争力の一層の強化に向けた「賑わいと交流」を生み出す創造性豊かなまちづくりが必要になっている。

本事業は、プロバスケットボールリーグ「B.LEAGUE」試合開催時に10,000人超を収容可能となるプロバスケットボールクラブ「川崎ブレイブサンダース」のホームアリーナを建設するとともに、計画地周辺エリアの新たな賑わいづくりや経済活性化を目的とし、隣接再開発事業と連携しながら、アリーナ施設、宿泊施設、商業施設等を含む複合エンターテインメント施設の建設、歩行者デッキの整備及び道路の拡幅整備を行うものである。

(2) 計画地及びその周辺における整備方針等

「川崎駅周辺総合整備計画」（平成28年3月改定、川崎市）

「川崎駅周辺総合整備計画」の基本方針及び基本施策は、以下のとおりである。

基本方針	基本施策
魅力と活力ある広域拠点の形成 地区内を往来しやすいまちづくり 安全・安心に過ごせるまちづくり 人と環境にやさしく持続可能なまちづくり 個性的でにぎわいのあるまちづくり 市民協働のまちづくり	1 再開発の推進 2 回遊性の強化 3 交通環境の整備 4 防災機能の強化 5 少子高齢社会への対応 6 グローバル化への対応 7 環境に配慮したまちづくりの推進 8 美しい都市景観・都市環境の形成 9 商業活性化の推進

計画地を含む京急川崎駅周辺については、基本施策の「再開発の推進」において、商業・業務・宿泊・交流等の都市機能が集積した都市拠点の整備を推進し、市の玄関口としてふさわしい魅力を発信する安全・安心な広域拠点としてのまちづくりを推進している。また、「回遊性の強化」において、民間開発の機会を捉え、駅東西地区やJR川崎駅と京急川崎駅周辺の歩行者動線の充実、にぎわいの創出を誘導している。

「京急川崎駅周辺地区まちづくり整備方針」（平成27年3月、川崎市）

京急川崎駅周辺地区のまちづくり整備方針は、以下のとおりである。

整備方針

羽田空港直結の立地特性を活かした国際性豊かな賑わいのあるまちづくり 防災性が高く地区を訪れる誰もが安心・安全で快適に利用できるまちづくり 環境に配慮したスマートなまちづくり
--

京急川崎駅周辺のまちづくり概念図は図1-2に示すとおり、計画地は川崎駅周辺にある商業・業務機能や市内にある企業・研究施設など既存ストックと連携・調和した国内外の人やモノが集い交流できる機能の導入や多摩川の自然環境と調和した複合空間の形成を誘導する「複合市街地ゾーン」に該当している。

また、計画地周辺では、「道路構成の見直し」、「自転車通行環境の改善」、「歩行者動線の充実」等が検討されており、民間再開発事業にあわせ、都市基盤の再編整備による広域交通結節機能の充実や乗換え利便性の向上を図っている。



図1-2 京急川崎駅周辺のまちづくり概念図

本事業に関する都市計画の概要

計画地のうち、三角地敷地は「京急川崎駅西口地区地区計画」のC地区に位置しており、地区計画の目標、区域の整備、開発及び保全に関する方針（土地利用の方針、地区施設の整備の方針等）、地区整備計画（建築物等の用途の制限、建築物の容積率の最高限度等）が定められている。

C地区については、土地利用の方針として「C地区は、駅を中心とした賑わい機能と多摩川との連携を誘導する土地利用を図る。」、建築物の容積率の最高限度として「10分の30」等が定められている。

(3) 環境配慮の内容等

基本計画の策定段階における環境配慮の内容等は、以下に示すとおりである。

計画建築物に関する配慮

- ・計画建築物のデザインは、周辺との調和を図るとともに、色彩や外壁の素材についても周辺との調和に配慮する。
- ・計画建築物の設計にあたっては、ビル風による周辺環境への影響が小さくなるよう、形状等を工夫する。

省エネルギー等の環境への配慮

- ・計画建築物の熱負荷低減や断熱性能の向上に努め、省エネルギーに配慮する。
- ・再生可能エネルギーシステムを導入し、共用部への電力供給の一部として利用することを検討する。
- ・エネルギー効率の優れた機器を積極的に採用するとともに、適切な空調ゾーニングにより、エネルギー消費量の削減に配慮する。
- ・計画建築物は、川崎市建築物環境配慮制度（CASBEE川崎）のAランクの獲得を目指し、積極的に環境配慮に取り組む。
- ・計画建築物は、建築物省エネルギー性能表示制度（BELS）3スター相当の性能を有する施設とする。
- ・廃棄物の発生抑制、再資源化等に配慮し、適切に分別保管できるよう廃棄物保管施設を設置する。

緑化への配慮

- ・「川崎市緑化指針」及び「川崎市環境影響評価等技術指針」に基づき、適切な緑化面積を確保する。
- ・植栽樹種の選定にあたっては、計画地及びその周辺で良好に生育している樹種、潜在自然植生構成種や植栽適性植物を主体とし、生育環境に適合する樹種とするとともに、都市景観に配慮する。

交通環境への配慮

- ・隣接再開発事業で整備する新設道路（以下「新設道路」という。）につながる駅前本町1号線を拡幅することで、道路ネットワークの再編に寄与する。
- ・隣接再開発事業と連携して京急川崎駅前からアリーナ敷地まで接続する歩行者デッキを整備し、来場者等の安全性に配慮するとともに、計画地周辺の交通環境への影響低減に努める。
- ・アリーナ敷地内に歩行者デッキと連続した広場を整備することで歩行者の滞留空間を確保する。

防災に関する配慮

- ・ 防災・減災に向けた安全対策や想定される浸水への対応に取り組む。
- ・ 災害発生時における帰宅困難者対策等に努める。

興行開催時における周辺環境への配慮

- ・ 会場設備等による騒音及び振動が計画地周辺の生活環境に影響を及ぼすことがないように、メインアリーナ及びサブアリーナは十分な防音対策及び防振対策を講じる。
- ・ 特に深夜帯に及ぶ興行の開催にあたっては、興行主催者及び来場者に騒音等への配慮を周知する。

(4) 土地利用計画

土地利用計画の概要は表1-1に、土地利用計画図は図1-3に示すとおりである。

計画地は、アリーナ敷地、三角地敷地及び道路用地に区分される。

アリーナ敷地及び三角地敷地では、中央に計画建築物を配置する計画である。

道路用地は、拡幅整備する駅前本町1号線の拡幅部分となる計画である^{注)}。

その他、駅前本町8号線の上空にアリーナ敷地と三角地敷地を接続する歩行者デッキ、新設道路の上空に三角地敷地と隣接再開発事業区域を接続する歩行者デッキを整備する計画である。

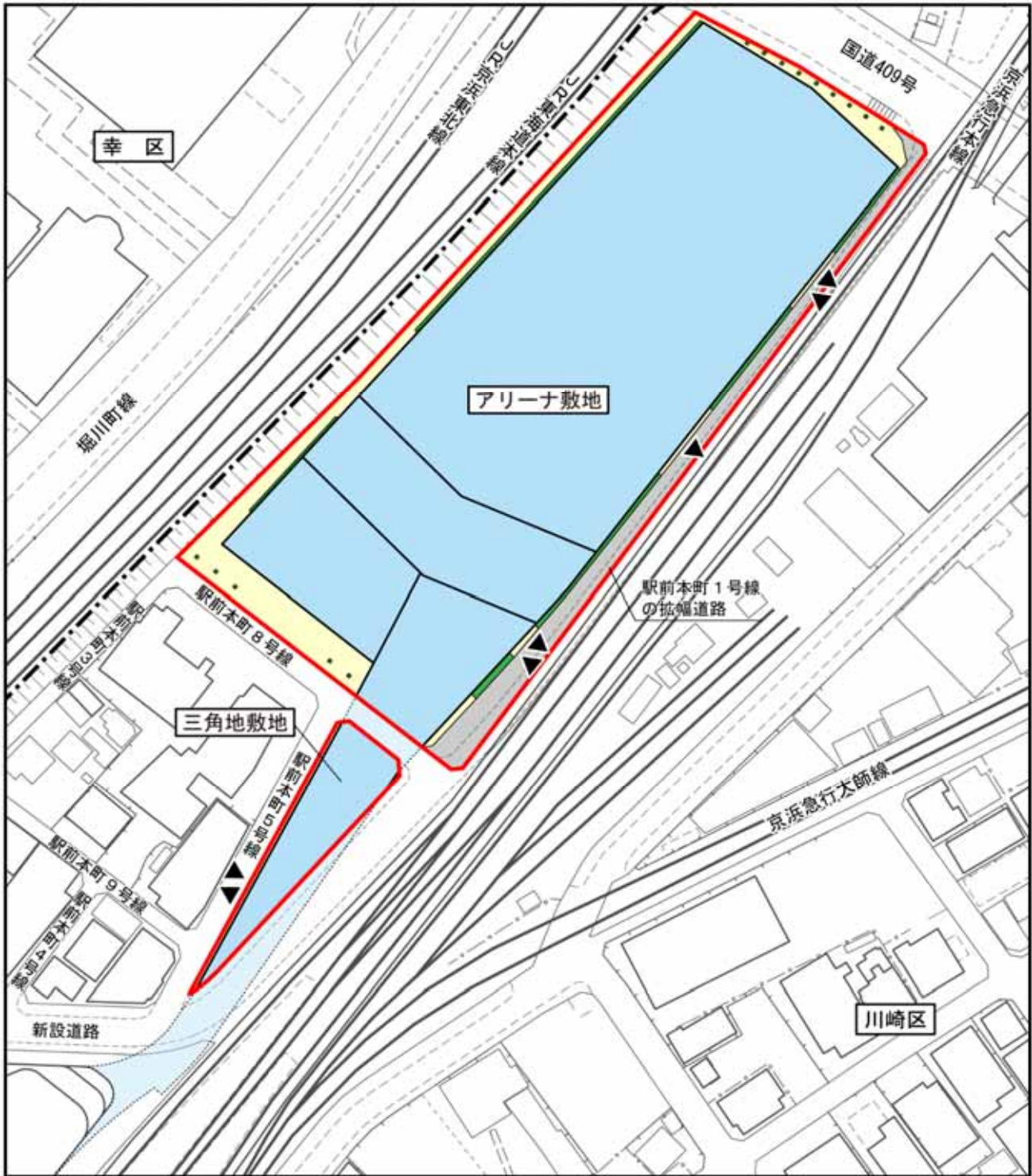
表1-1 土地利用計画の概要

区 分		面 積	割 合
アリーナ敷地	計画建築物（建築面積）	約12,340m ²	約80.3%
	通路・アプローチ等、車路 ^{注1)}	約 1,090m ²	約 7.1%
	緑化地	約 210m ²	約 1.4%
	計	約13,640m ²	約88.8%
三角地敷地	計画建築物（建築面積）	約 790m ²	約 5.1%
	通路・アプローチ等、車路 ^{注1)}	約 40m ²	約 0.3%
	計	約 830m ²	約 5.4%
道路用地	道路（拡幅部分） ^{注2)}	約 890m ²	約 5.8%
合 計		約15,360m ²	100.0%

注1)車路の面積が小さいため、通路・アプローチ等と車路を合計した面積を示す。

注2)道路（拡幅部分）には道路付属物等が含まれている。また、拡幅後の道路は4車線未満である。今後の関係機関との協議等により変更する可能性がある。

注) 道路用地は、本事業で駅前本町1号線を拡幅整備後、川崎市に移管する。



凡例









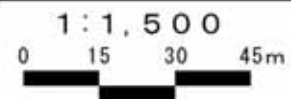
- | | | | | | |
|---|-----|---|---------------|--|------------|
|  | 計画地 |  | 計画建築物 |  | 施設関連車両の出入口 |
|  | 区界 |  | 緑化地 | | |
| | |  | 通路・アプローチ等、車路 | | |
| | |  | 道路用地 | | |
| | |  | 歩行者デッキ（道路上空等） | | |

図1-3 土地利用計画図



(5) 建築計画等

建築計画

建築計画の概要は表1-2に、アリーナ敷地の計画建築物の各階平面図は図1-4(1)～(8)に、立面図は図1-5に、断面図は図1-6に、三角地敷地の計画建築物の各階平面図、立面図及び断面図は図1-7に、完成予想図は図1-8に示すとおりである。

アリーナ敷地の計画建築物の主な用途はアリーナ、宿泊、商業、温浴等、延べ面積は約57,930m²、高さは約80m（地上17階）である。

三角地敷地の計画建築物の主な用途は商業、延べ面積は約1,290m²、高さは約13m（地上3階）である。

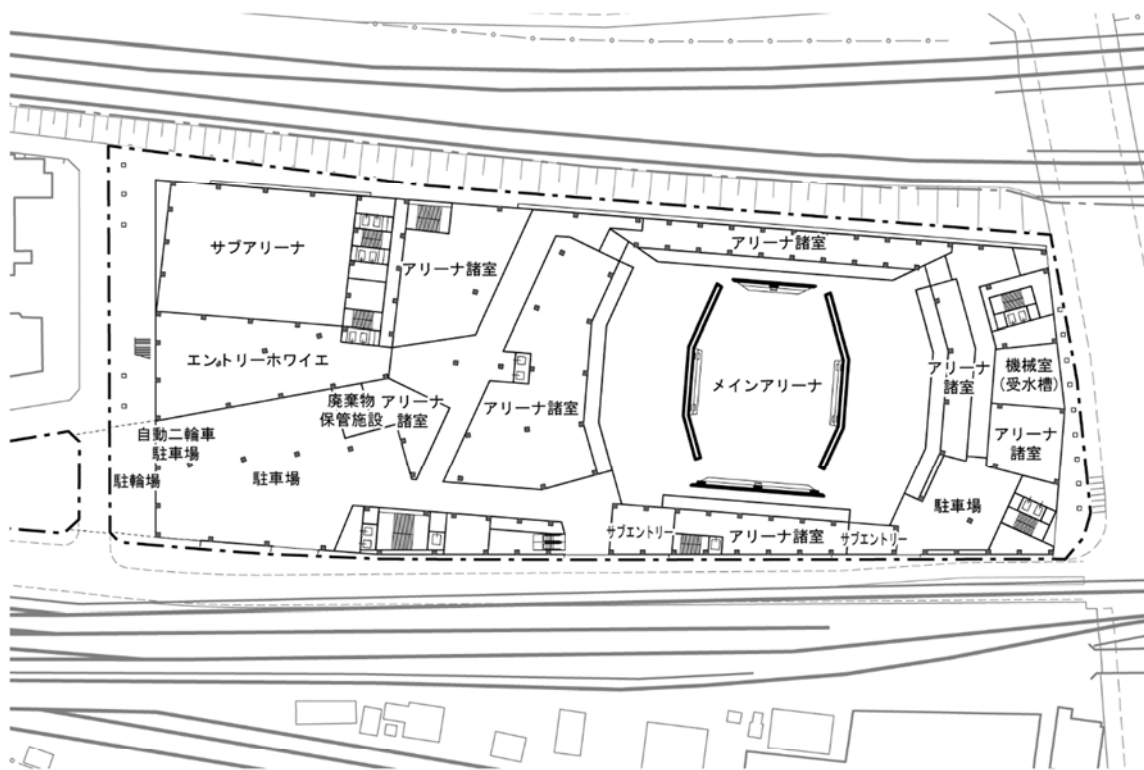
表1-2 建築計画の概要

項目	アリーナ敷地	三角地敷地	合計
敷地面積	約13,640m ²	約830m ²	約14,470m ²
建築面積	約12,340m ²	約790m ²	約13,130m ²
建ぺい率	約91%	約95%	-
延べ面積	約57,930m ²	約1,290m ²	約59,220m ²
アリーナ	約36,000m ²	-	約36,000m ²
宿泊	約10,000m ²	-	約10,000m ²
商業	約5,400m ²	約1,090m ²	約6,490m ²
温浴	約2,500m ²	-	約2,500m ²
デッキ・通路等 ^{注)}	約2,300m ²	約90m ²	約2,390m ²
駐車場等	約1,730m ²	約110m ²	約1,840m ²
容積対象延べ面積	約56,200m ²	約1,180m ²	-
容積率	約410%	約140%	-
高さ	アリーナ棟：約50m 商業棟：約80m	約13m	-
階数	地上17階	地上3階	-
構造	鉄骨造	鉄骨造	-
主な用途	アリーナ、宿泊、 商業、温浴等	商業	-
駐車場台数	約17台	約2台	約19台
駐輪場台数	約100台	-	約100台
自動二輪車駐車場	約10台	-	約10台

注) 計画地内に整備するデッキ・通路等の延べ面積である。その他、駅前本町8号線の上空にアリーナ敷地と三角地敷地を接続する歩行者デッキ(約120m²)、新設道路の上空に三角地敷地と隣接再開発事業区域を接続する歩行者デッキ(道路上空約520m²+隣接再開発事業区域内約250m²=合計約770m²)を整備する計画である。なお、隣接再開発事業区域内の歩行者デッキについては、隣接再開発事業との調整により、本事業の整備範囲や形状等を変更する可能性がある。

- 1 建ぺい率及び容積率は、四捨五入前の数値(面積)で計算している。
- 2 アリーナ敷地及び三角地敷地の基準建ぺい率は、商業地域(指定建ぺい率80%)の防火地域内に耐火建築物として計画するため、「制限なし(100%)」となる。
- 3 アリーナ敷地は容積率の限度が異なる用途地域等にわたるため、敷地面積比による加重平均で算出した指定容積率は「約412%」となる。
- 4 今後の関係機関との協議等により変更する可能性がある。

1階平面図



ピット階平面図

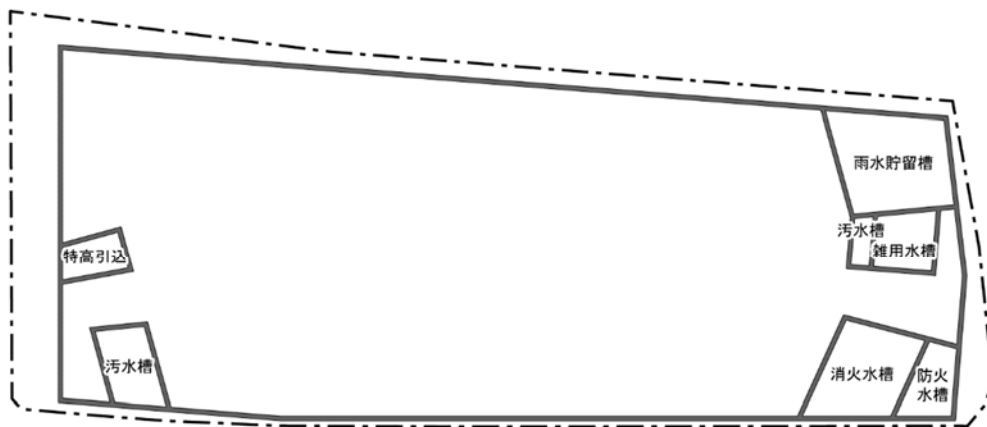
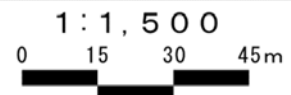
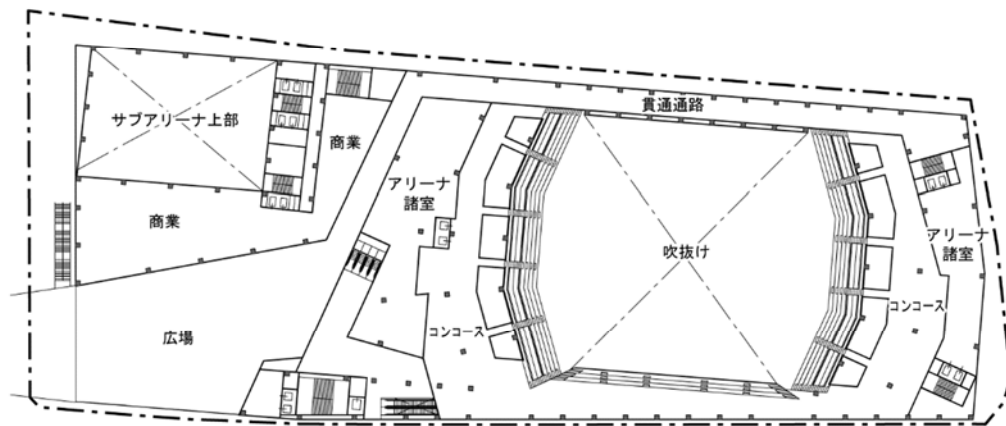


図1-4(1) 各階平面図 (アリーナ敷地: ピット階、1階)



3階平面図



2階平面図

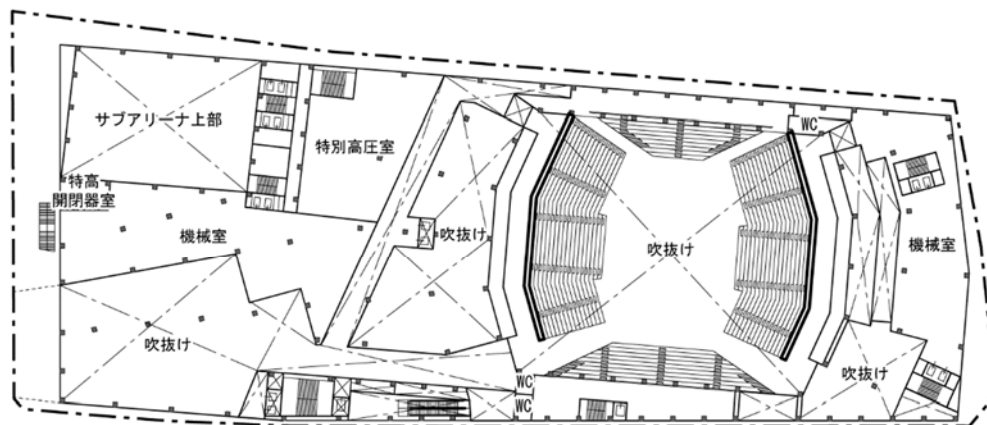
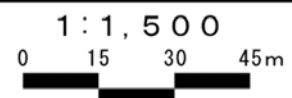
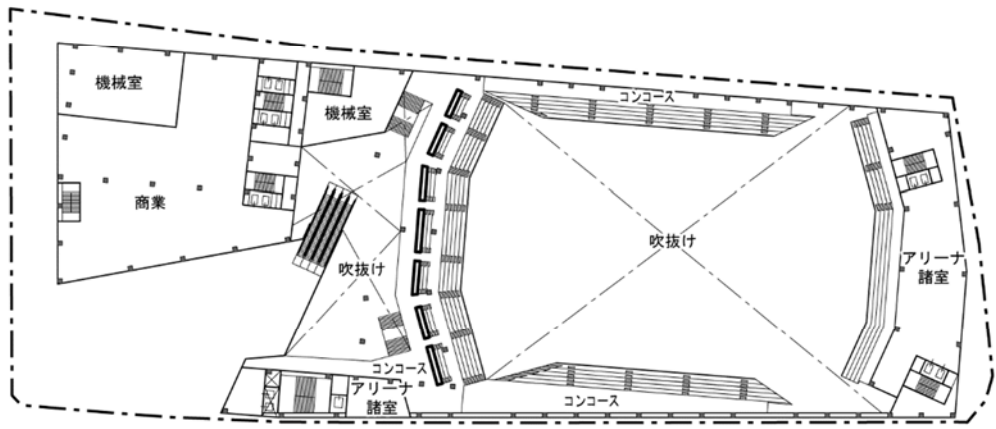


図1-4(2) 各階平面図 (アリーナ敷地: 2階、3階)



5階平面図



4階平面図

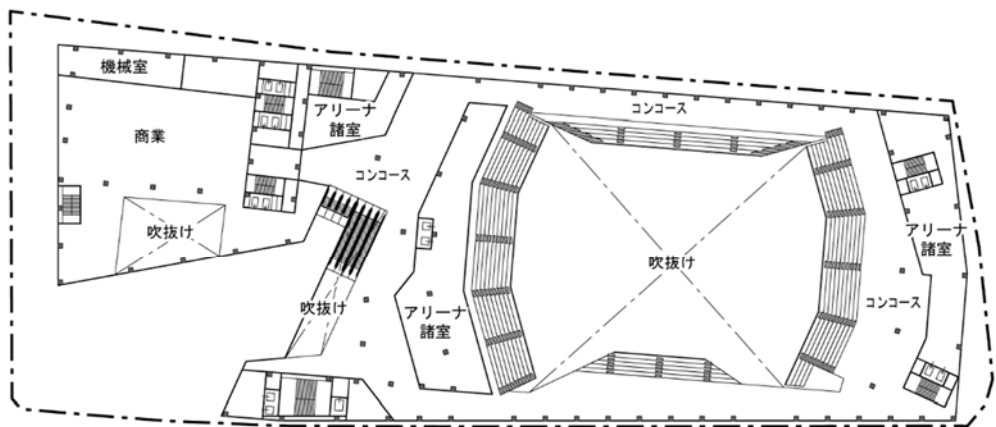
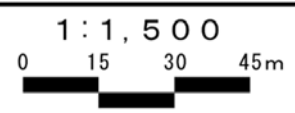
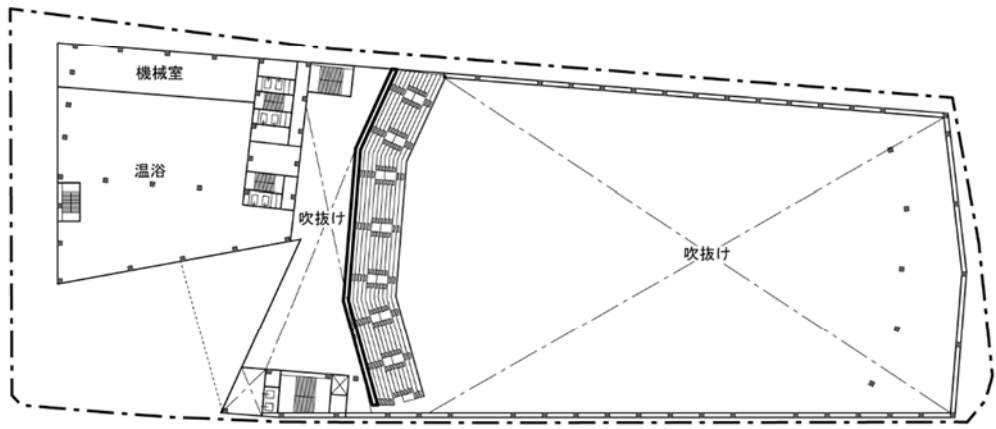


図1-4(3) 各階平面図 (アリーナ敷地: 4階、5階)



7階平面図



6階平面図

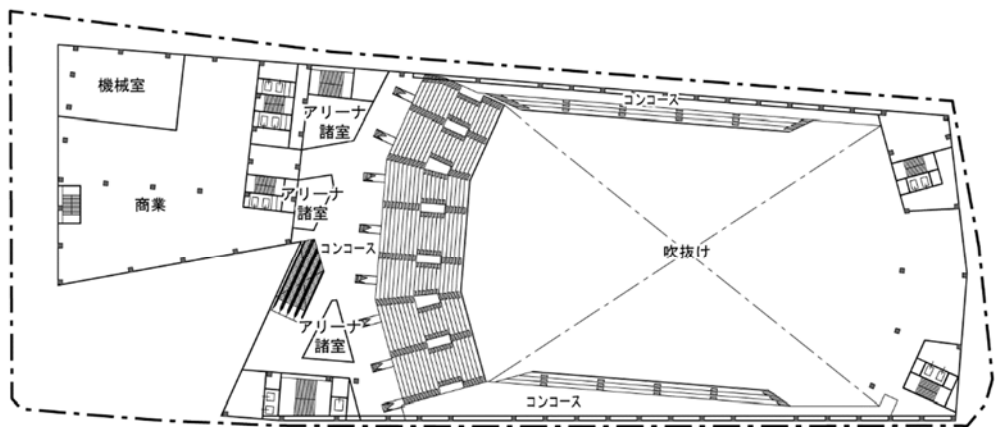
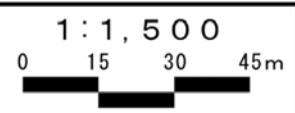
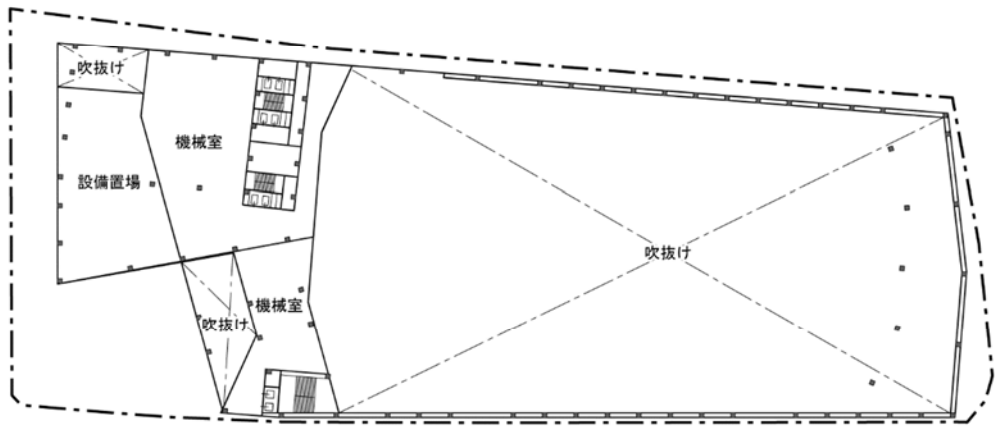


図1-4(4) 各階平面図 (アリーナ敷地 : 6階、7階)



9階平面図



8階平面図

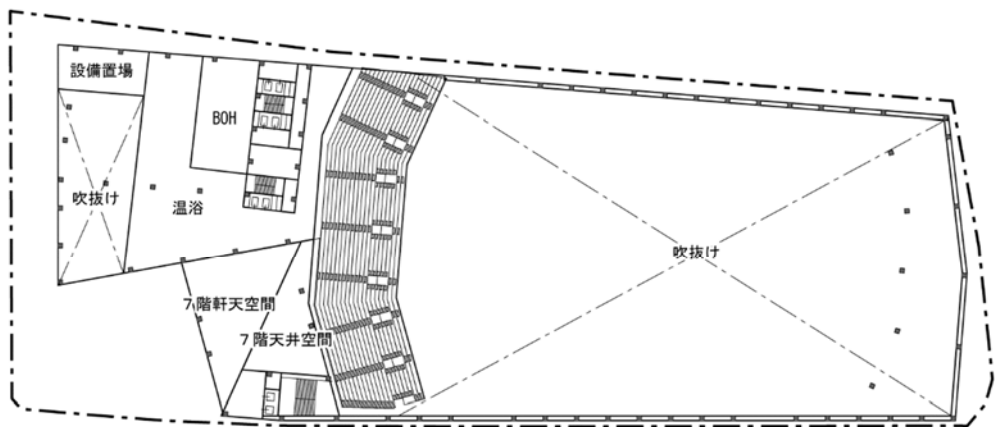
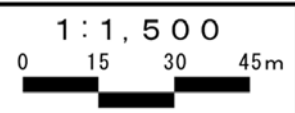


図1-4(5) 各階平面図 (アリーナ敷地: 8階、9階)



11～13階平面図



10階平面図

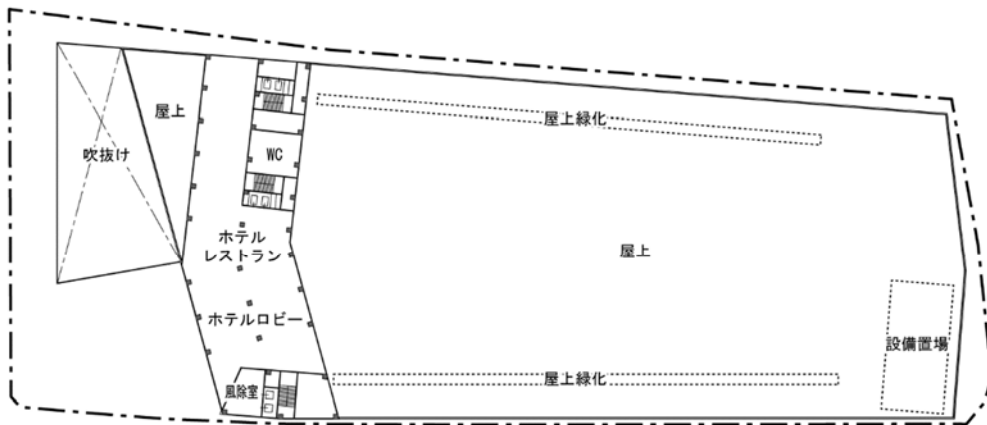
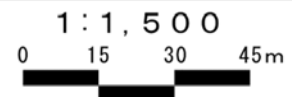
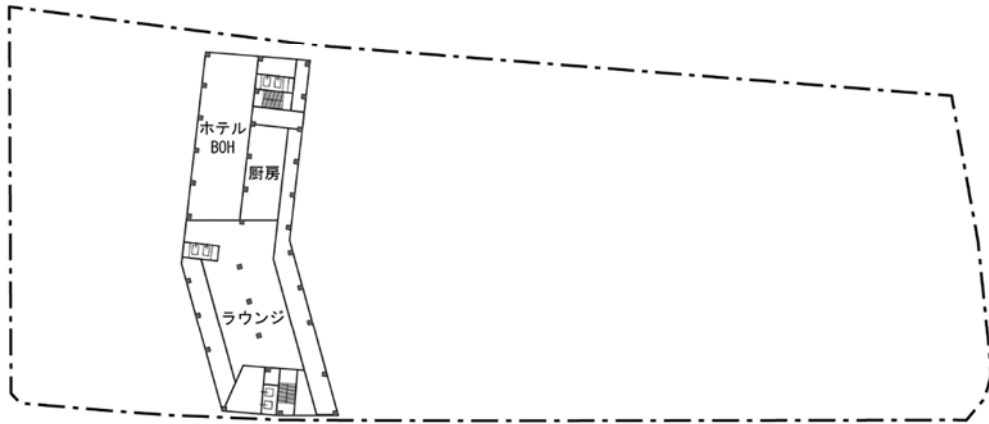


図1-4(6) 各階平面図 (アリーナ敷地 : 10階、11～13階)



16階平面図



14～15階平面図

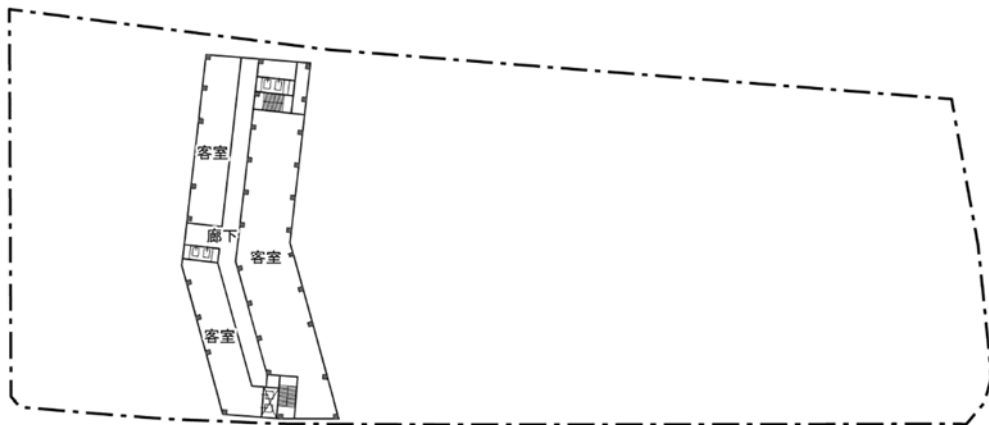
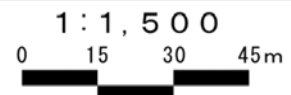


図1-4(7) 各階平面図 (アリーナ敷地 : 14～15階、16階)



17階平面図

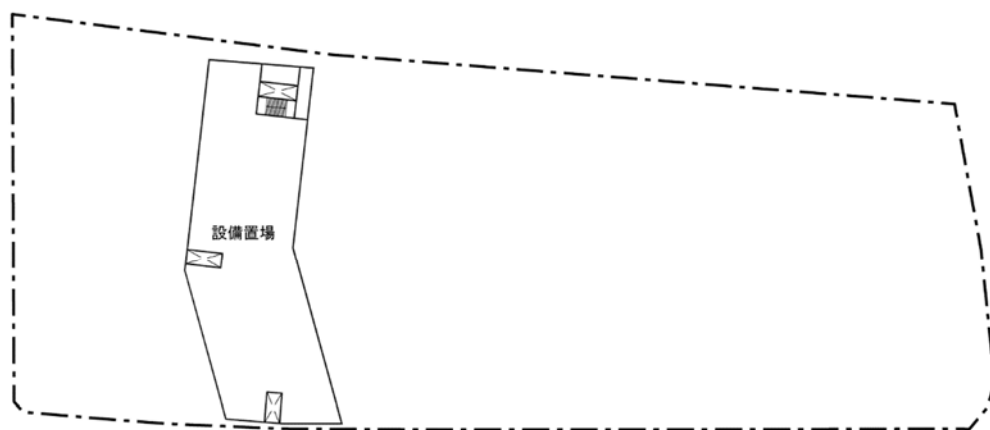
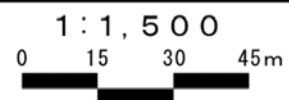
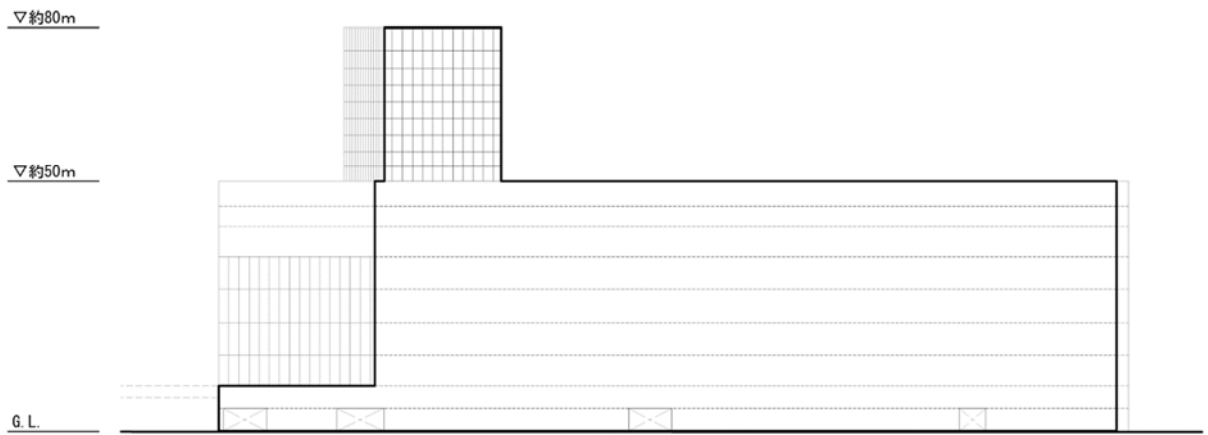


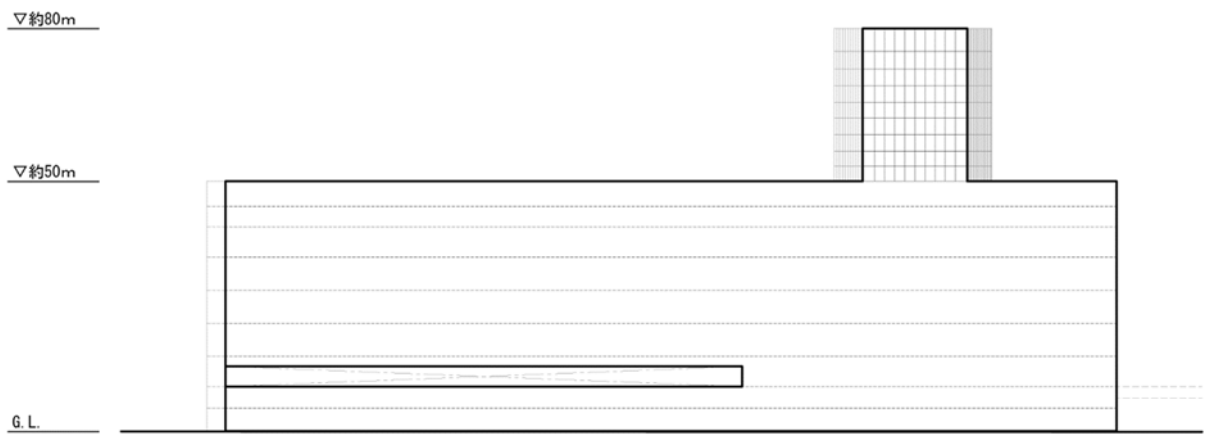
図1-4(8) 各階平面図 (アリーナ敷地 : 17階)



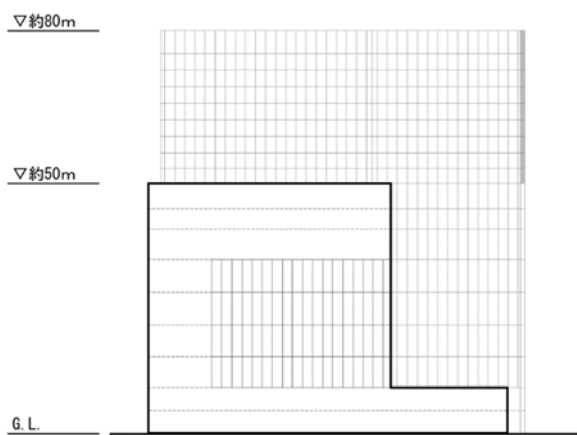
東立面図



西立面図



南立面図



北立面図

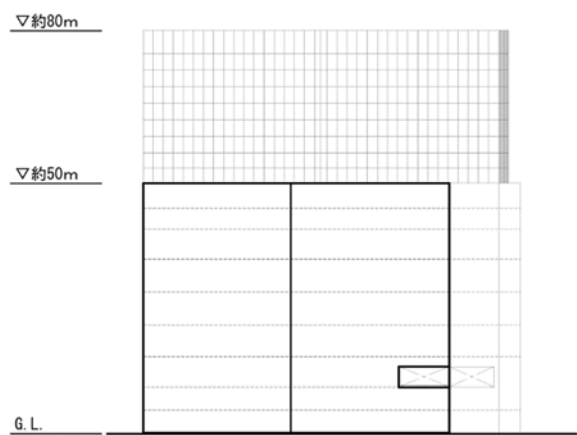
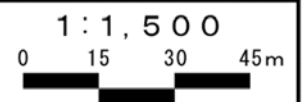
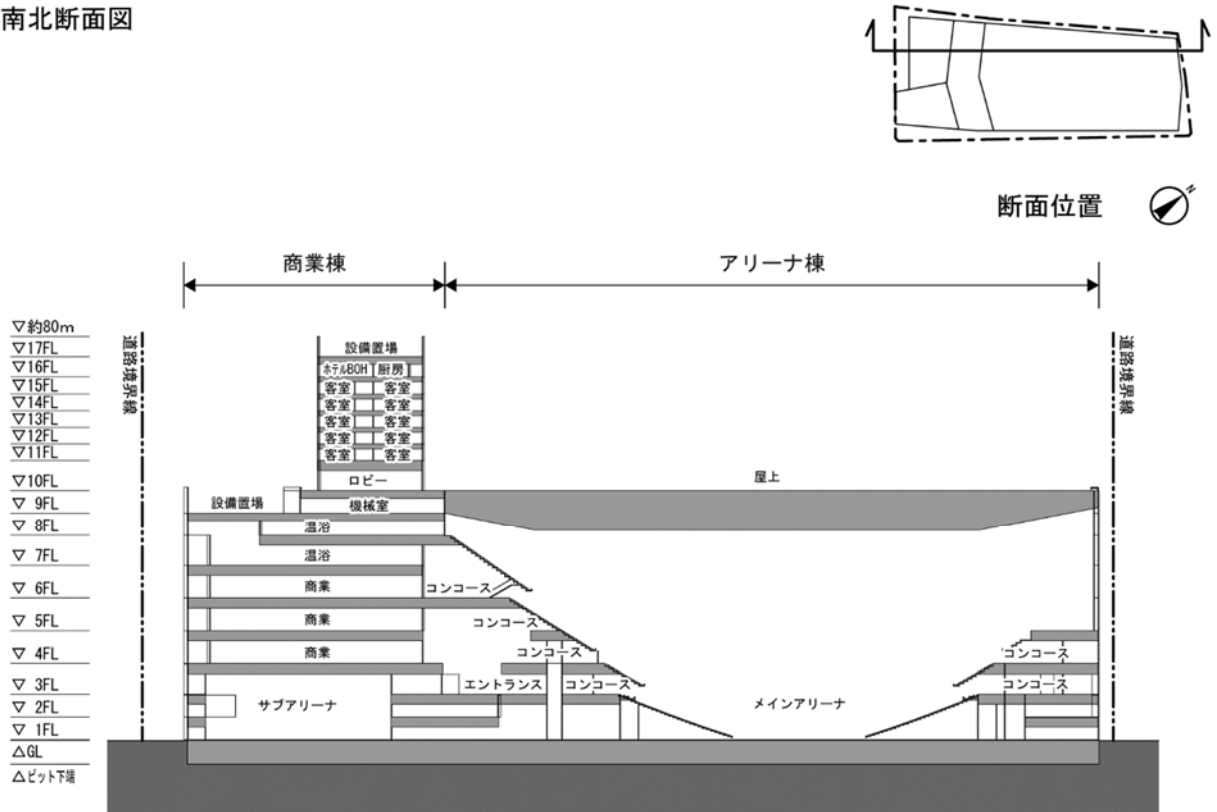


図1-5 立面図（アリーナ敷地）



南北断面図



東西断面図

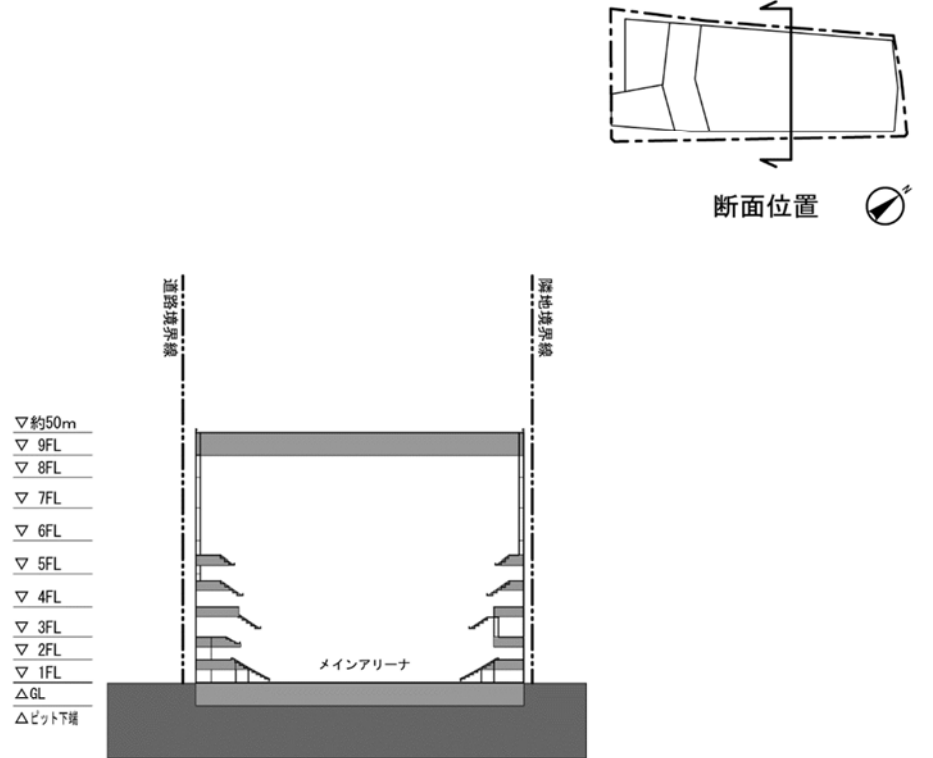
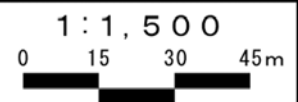
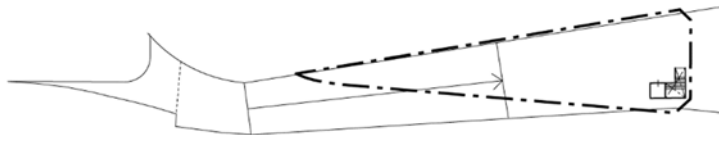


図1-6 断面図（アリーナ敷地）

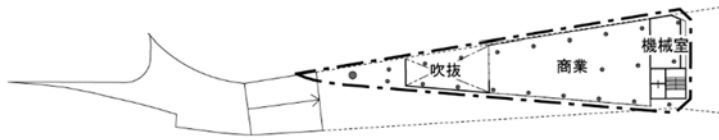


各階平面図

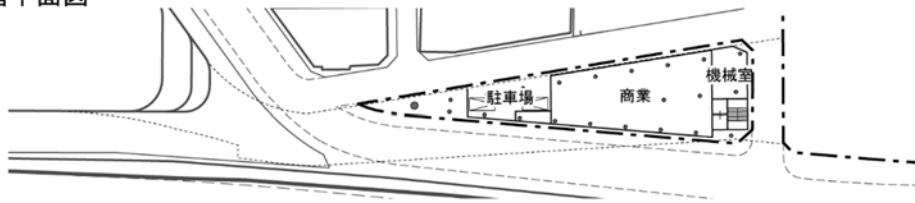
3階平面図



2階平面図

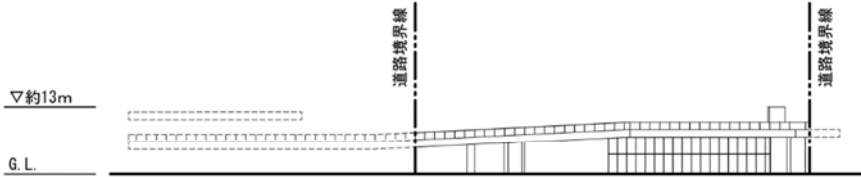


1階平面図

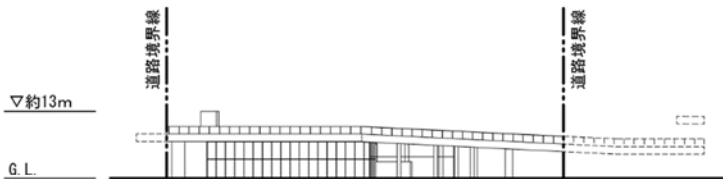


立面図

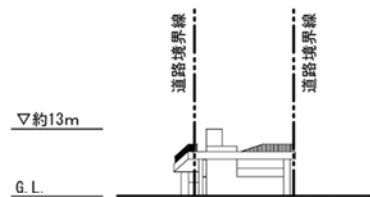
東立面図



西立面図



北立面図



断面図 (南北)

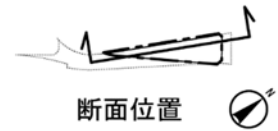
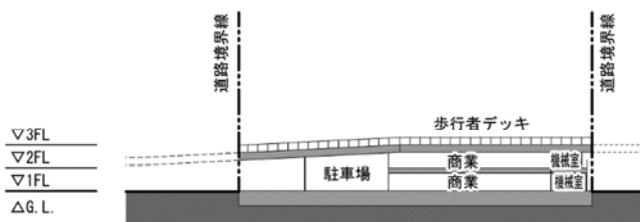
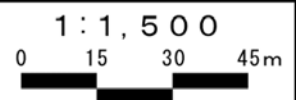


図1-7 各階平面図、立面図及び断面図 (三角地敷地)



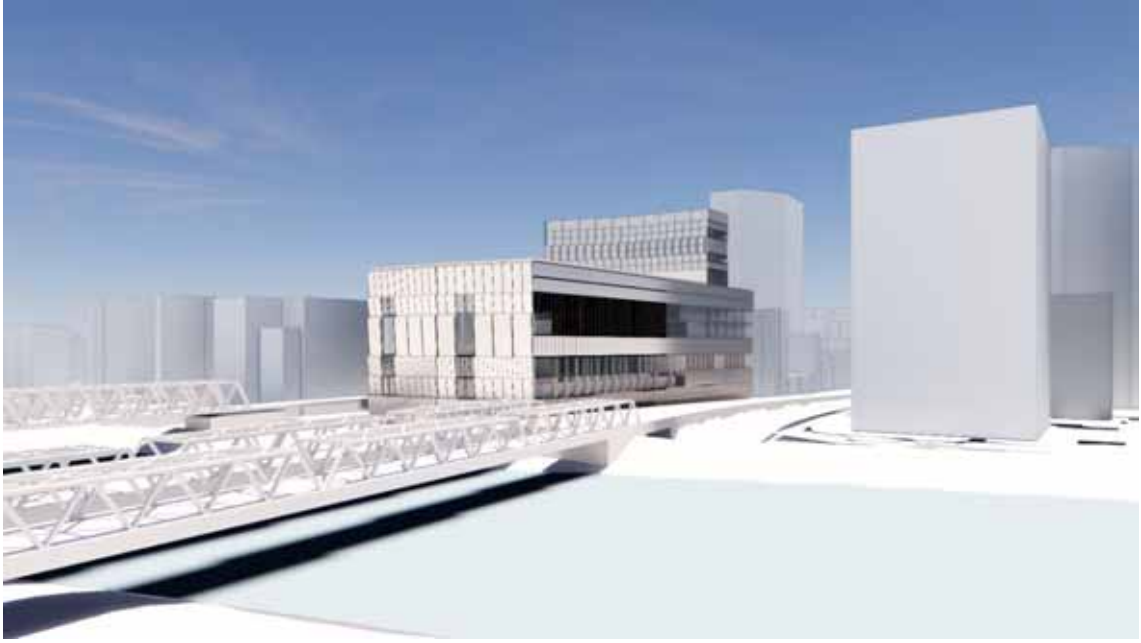


图1-8 完成予想図

施設計画

ア 施設の概要

(ア) アリーナ施設計画

アリーナ施設は、アリーナ敷地のアリーナ棟にメインアリーナ、商業棟1～3階にサブアリーナを計画している。

メインアリーナは、プロバスケットボールリーグ「B.LEAGUE」に所属するプロバスケットボールクラブ「川崎ブレイブサンダース」のホームアリーナとしてホームゲームが行われるほか、コンサートやスポーツイベント、展示会等の多様なイベントの開催を計画している。

サブアリーナは、スポーツ利用のほか、ライブイベント等の開催を計画している。

アリーナ施設の概要は、表1-3に示すとおりである。

表1-3 アリーナ施設の概要

区 分	メインアリーナ	サブアリーナ
面 積 ^{注1)}	約8,500m ²	約950m ²
最大収容人数 ^{注2)}	約15,000人	約2,000人
利 用 用 途	バスケットボール試合、 コンサート、スポーツイベント、 展示会等	スポーツ利用、ライブイベント等
基本利用時間 ^{注3)}	8:00～24:00	8:00～24:00

注1)客席配置、ステージ配置が行われる範囲の面積を示す。

注2)最大収容人数は客席レイアウトにより異なる。

注3)興行の内容により、利用時間が深夜帯に及ぶ可能性がある。

(イ) 宿泊施設計画

宿泊施設は、アリーナ敷地の商業棟10～17階に計画している。宿泊施設の概要は、以下のとおりである。

- ・延 べ 面 積：約10,000m²
- ・客 室 数：約150室
- ・収 容 人 数：約300人
- ・館 内 施 設：客室、レストラン、カフェ、ラウンジ等

(ウ) 商業施設計画

商業施設は、アリーナ敷地の商業棟 3 ～ 6 階及び三角地敷地の計画建築物 1 ～ 2 階に計画している。商業施設の概要は、以下のとおりである。

- ・延 べ 面 積：アリーナ敷地 約5,400m²、三角地敷地 約1,090m²
- ・営 業 時 間：11:00～23:00（一部店舗のみ）
- ・年間営業日数：365日（一部店舗のみ）
- ・商業施設の種類：飲食店舗、物販店舗等

(I) 温浴施設計画

温浴施設は、アリーナ敷地の商業棟 7 ～ 8 階に計画している。温浴施設の概要は、以下のとおりである。

- ・延 べ 面 積：約2,500m²
- ・営 業 時 間：24時間
- ・年間営業日数：365日
- ・推定年間客数：約120,000人
- ・館 内 施 設：浴室、サウナ室、ロッカー室等

(オ) その他

アリーナ敷地の商業棟 3 階の広場及びアリーナ棟屋上では、興行に合わせた多様なイベントを計画している。

イ 発生集中交通量

本事業の発生集中交通量は、表1-4に示すとおりである。なお、発生集中交通量はメインアリーナにおける興行開催時を想定しており、平日及び休日開催で台数の違いはない。

表1-4 発生集中交通量（往復）

用途	単位：台/日		
	大型車	小型車	合計
アリーナ	80	160	240
宿泊	2	6	8
商業	26	88	114
温浴	4	10	14
合計	112	264	376

- 1 アリーナ、宿泊、温浴の発生集中交通量は、類似施設のヒアリングに基づき設定した。
- 2 商業の発生集中交通量は、「大規模開発地区関連交通計画マニュアル 改訂版」（平成26年6月、国土交通省都市局）に基づき算出した。

(6) 緑化計画

緑化計画

緑化計画の概要は表1-5に、緑化計画図は図1-9(1)～(2)に示すとおりである。

本事業では、「川崎市緑の基本計画」（平成30年3月、川崎市）、「川崎駅周辺地区緑化推進重点地区計画」（令和3年3月、川崎市）等を踏まえ、アリーナ敷地は駅前本町8号線及び国道409号の歩道に面して高木（大景木）を配置するとともに、駅前本町1号線及びJR線路側に壁面緑化、アリーナ棟に屋上緑化を行う計画である。

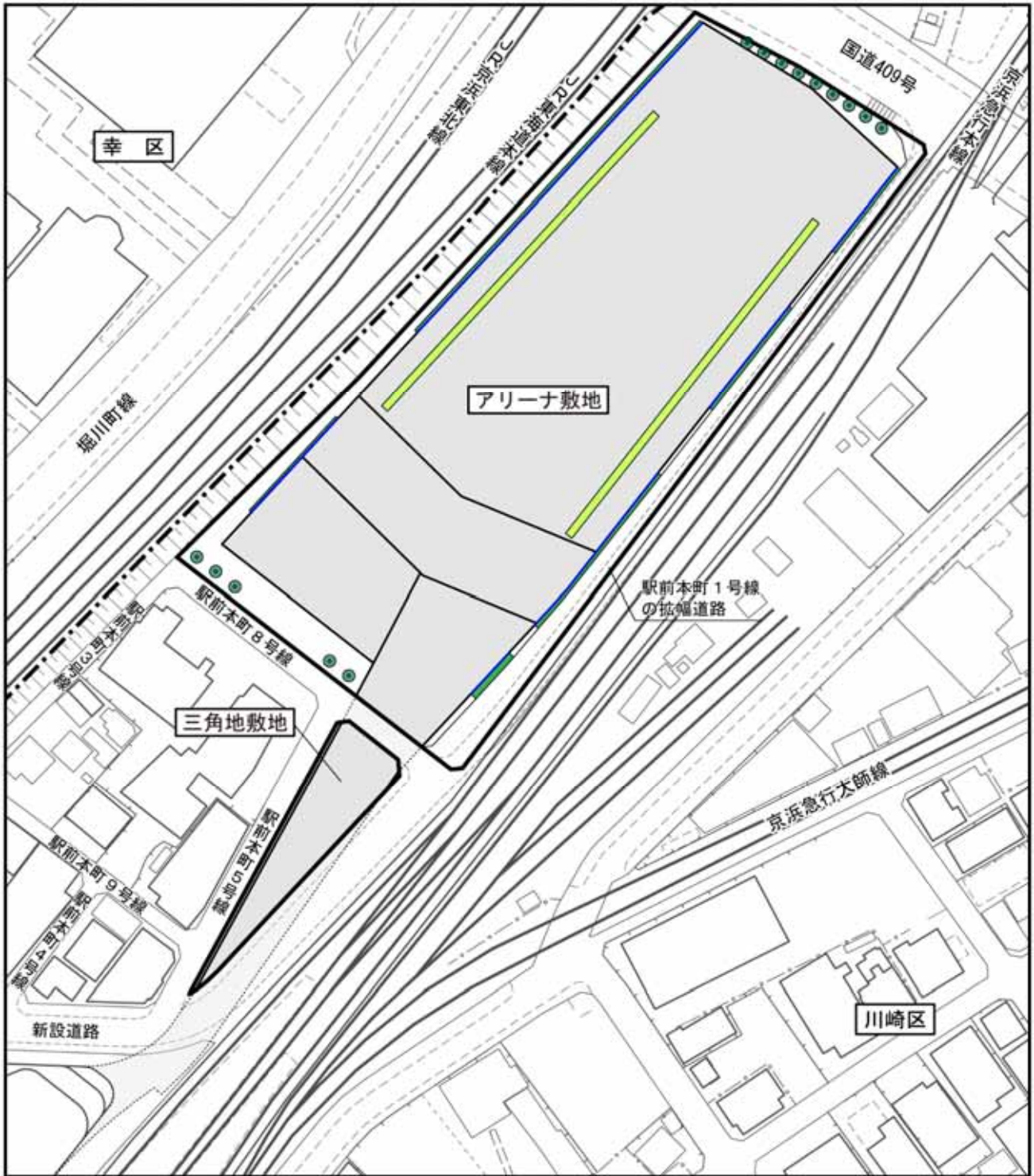
緑化面積は約2,310m²（約15.0%）であり、「川崎市緑化指針」（令和4年2月一部改正、川崎市）及び「川崎市環境影響評価等技術指針」（令和3年3月改訂、川崎市）に基づき、適切な緑化面積を確保する計画である。

表1-5 緑化計画の概要

区分		アリーナ敷地	三角地敷地	道路用地	合計
緑化面積	緑化地 ^{注1)}	約 210m ²	-	-	約 210m ²
	壁面緑化	約 1,040m ²	-	-	約 1,040m ²
	屋上緑化	約 360m ²	-	-	約 360m ²
	大景木植栽 ^{注2)}	約 700m ²	-	-	約 700m ²
	合計	約 2,310m ²	-	-	約 2,310m ²
敷地面積		約13,640m ²	約830m ²	約890m ²	約15,360m ²
敷地面積に対する緑化面積の割合		約16.9%	-	-	約15.0%

注1)緑化地面積には、大景木のマルチング材部分の面積（約8.96m²）を含む。

注2)大景木植栽による緑化面積：樹高（8.0m）を直径とした円の面積（50.24m²）×本数（14本）＝約700m²



凡例


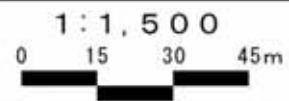
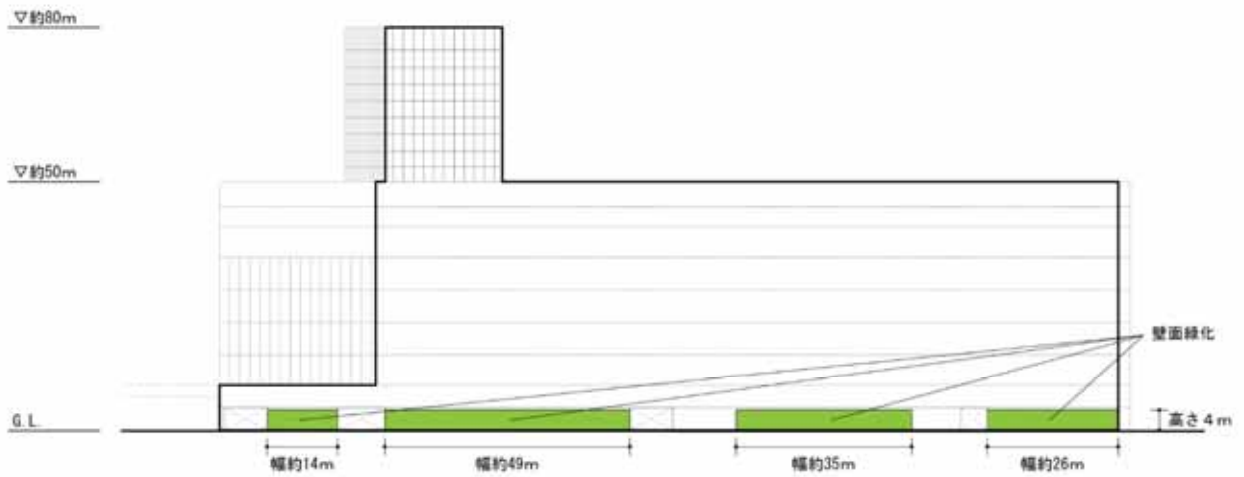
- | | | | |
|---|--------|---|----------------|
|  | 計画地 |  | 緑化地 |
|  | 計画建築物 |  | 壁面緑化 |
|  | 歩行者デッキ |  | 屋上緑化 (アリーナ棟屋上) |
|  | 区界 |  | 大景木植栽 (高さ8m) |

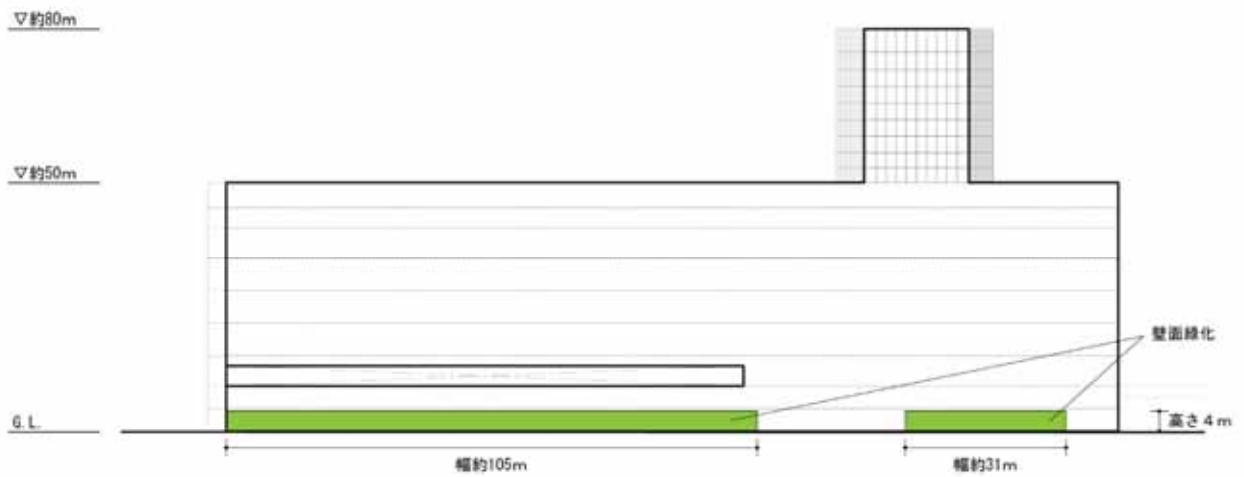
図1-9(1) 緑化計画図



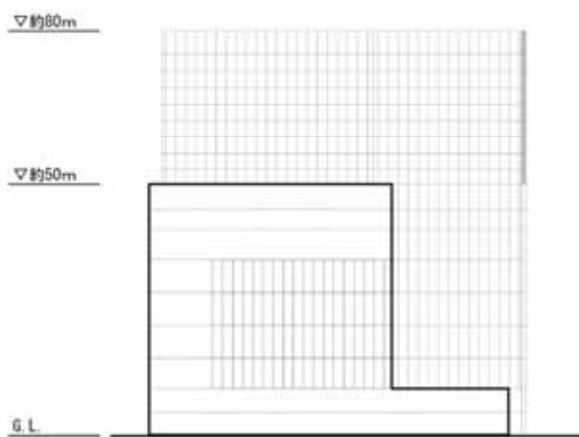
東立面図



西立面図



南立面図



北立面図

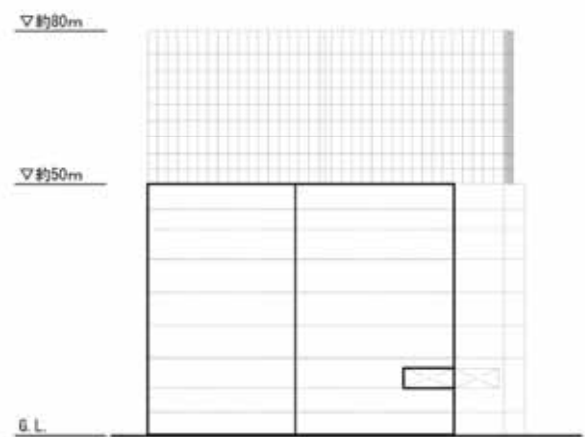
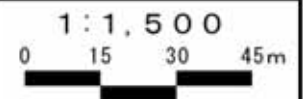


図1-9(2) 緑化計画図 (アリーナ敷地：壁面緑化位置)



植栽予定樹種

主な植栽予定樹種及び植栽予定本数は、表1-6に示すとおりである。

植栽樹種の選定にあたっては、計画地及びその周辺で良好に生育している樹種、潜在自然植生構成種や植栽適性植物を主体とし、生育環境に適合する樹種とするとともに、都市景観に配慮する計画である。

表1-6 主な植栽予定樹種及び植栽予定本数

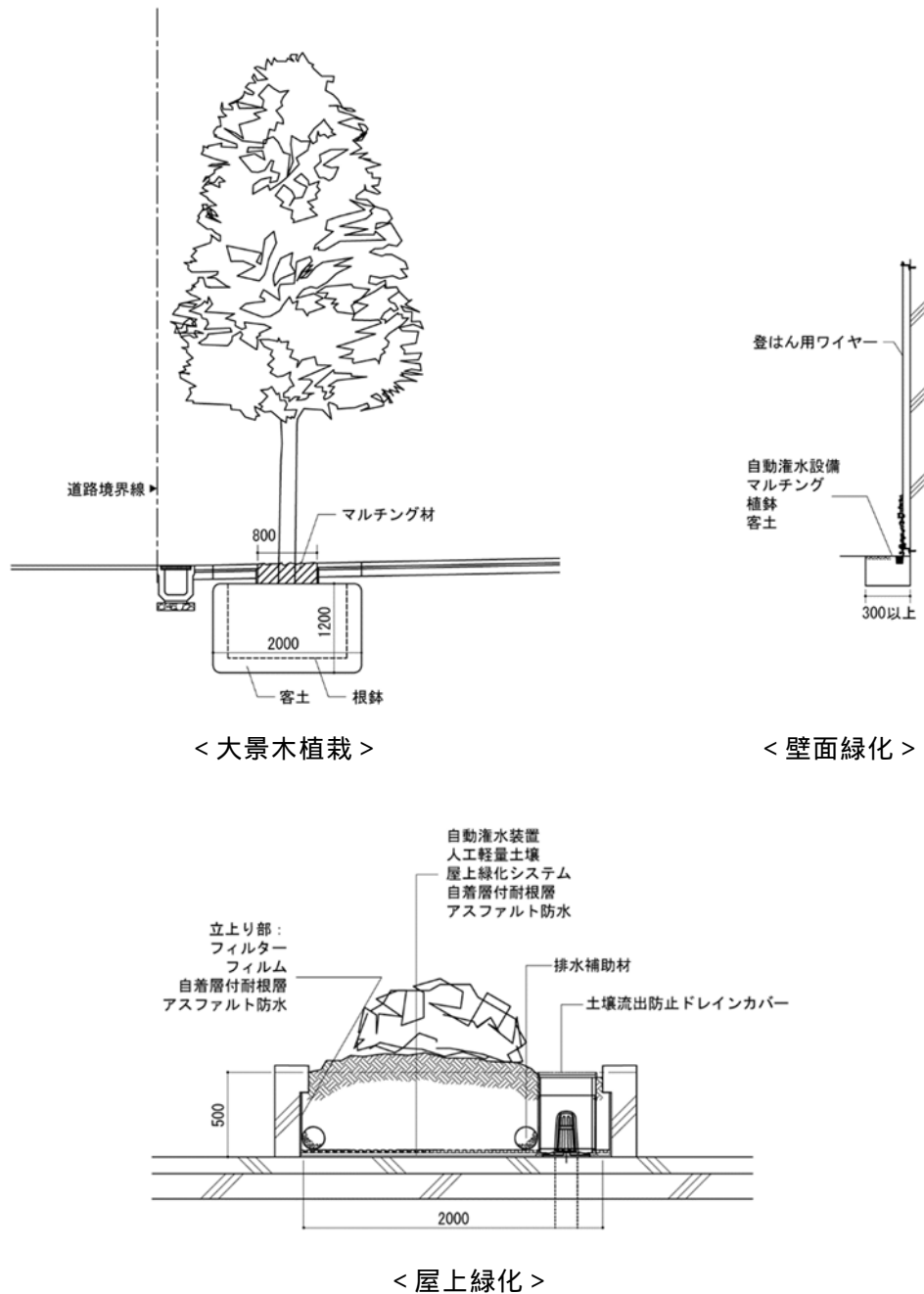
区分		主な植栽予定樹種		植栽予定本数		規格	
地上	大景木	常緑樹	シラカシ、タブノキ	5本	14本	樹高：8.0m 目通周：0.4m以上 葉張：2.5m以上	
		落葉樹	プラタナス、ヤマボウシ	9本			
	高木	常緑樹	カナメモチ、マサキ	5本	11本	樹高：3.0m以上 目通周：0.18m以上 葉張：0.8m以上	
		落葉樹	サルスベリ、プラタナス	6本			
	中木	常緑樹	イヌツゲ、ウバメガシ、 シルバープリペット	46本	92本	樹高：1.5m以上 3.0m未満 葉張：0.3m以上	
		落葉樹	ドウダンツツジ、ヒメシャラ	46本			
	低木	常緑樹	アセビ、トベラ、ハマヒサカキ、 マルバシャリンバイ	80本	160本	樹高：0.3m以上 0.5m未満 葉張：0.3m以上	
落葉樹		アキグミ、イヌコリヤナギ、 ガクアジサイ、トサミズキ、 ニシキギ、ミツバツツジ、 ミツマタ、ミヤギノハギ、 ユキヤナギ	80本				
地被類		シャガ、ツワブキ、フッキソウ、 ヤブラン、リュウノヒゲ		約210m ²		-	
壁面	地被類		キツタ、セイヨウキツタ、 テイカカズラ		約1,040m ²		-
屋上	低木	常緑樹	アセビ、キンモクセイ、 クチナシ、ハマヒサカキ、 フィリフェラオーレア	120本	240本	樹高：0.3m以上 0.5m未満 葉張：0.3m以上	
		落葉樹	ガクアジサイ、ドウダンツツジ、 トサミズキ、ユキヤナギ	120本			
	地被類		キチジョウソウ、ハラン、 リュウノヒゲ		約360m ²		-

大景木：樹高6.0m以上、目通周0.4m以上、葉張2.5m以上
 高木：樹高3.0m以上、目通周0.18m以上、葉張0.8m以上
 中木：樹高1.5m以上3.0m未満、葉張0.3m以上
 低木：樹高0.3m以上1.5m未満、葉張0.3m以上

植栽基盤整備計画

植栽基盤は、緑化地となる部分は透水層を確保しつつ良質な客土により必要土壌量を上回る土壌に入れ替え、植栽予定樹種に応じた適切な土壌を用いるとともに、樹木等の育成を支える十分な土壌厚を確保する等、樹木等の生育に適した植栽基盤の整備を図る計画である。

植栽基盤整備のイメージは、図1-10に示すとおりである。



単位：mm

図1-10 植栽基盤整備のイメージ

維持管理計画

緑化地等の維持管理計画は、表1-7に示すとおりである。

緑化地等の維持管理については、毎年適切な時期に剪定、刈込み、施肥、病虫害防除、除草・草刈、灌水等を行うことにより、健全な育成を図る計画である。

屋上緑化部分については、散水に配慮するとともに、土壌の飛散防止に配慮した管理を行い、良好な生育環境の維持に努める計画である。

表1-7 緑化地等の維持管理計画

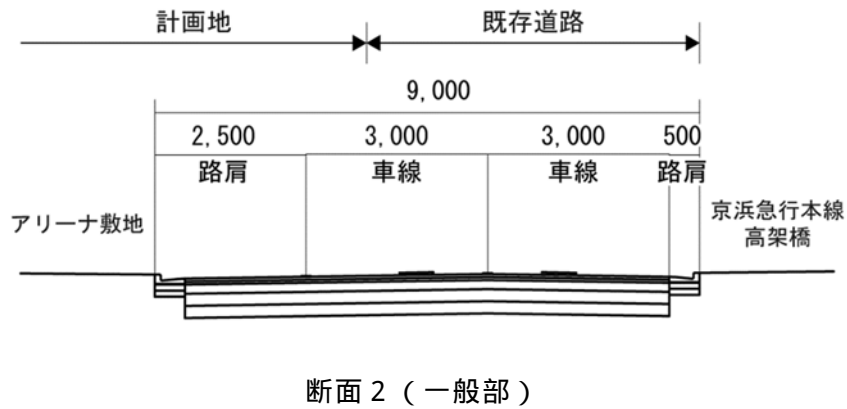
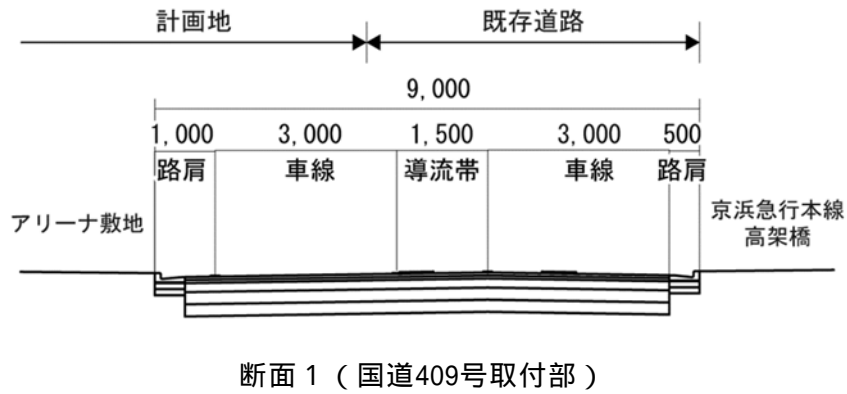
管理作業	作業頻度	作業時期											
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
剪定（常緑樹）	1～2回					■	■			■	■		
剪定（落葉樹）		■	■					■					■
刈込み	1～3回					■	■	■	■	■	■	■	
施肥	1～2回	■	■	■			■						■
病虫害防除	3～4回	■	■			■	■	■	■	■			
除草・草刈	2～3回					■	■	■	■	■			
灌水	適宜	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■

(7) 道路整備計画

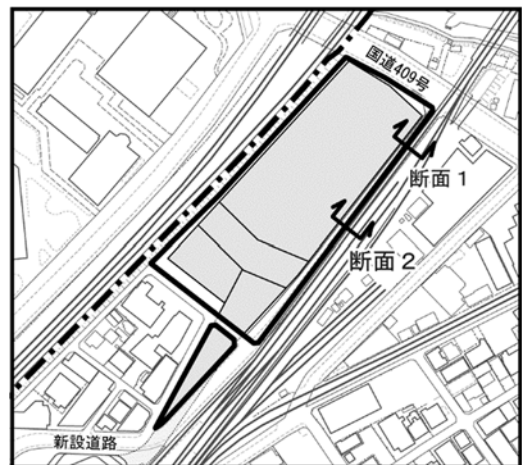
本事業では、既存の駅前本町1号線（幅員約5.5m）を拡幅し、国道409号から新設道路につながる駅前本町1号線の拡幅道路（幅員約9.0m）を整備する計画である。

道路標準断面図は、図1-11に示すとおりである。

なお、道路形状及び道路構造等は、今後の関係機関との協議等により変更する可能性がある。



単位：mm



街灯等の公共設備については記載していない。

図1-11 道路標準断面図

(8) 交通計画

自動車動線計画

自動車動線計画図は、図1-12(1)～(2)に示すとおりである。

施設関連車両の出入口は、アリーナ敷地は駅前本町1号線の拡幅道路に面して、三角地敷地は駅前本町5号線に面して設置する計画である。

また、施設関連車両の主な走行経路は、駅前への車両進入の抑制を図り、国道409号及び川崎府中線（主要地方道9号）等を利用する計画である。

歩行者動線計画

歩行者動線計画図は、図1-13(1)～(2)及び図1-14(1)～(2)に示すとおりである。

歩行者の計画建築物への出入口は、アリーナ敷地は計画建築物南側及び北側に、三角地敷地は計画建築物東側に設置する計画である。

また、隣接再開発事業竣工後の歩行者動線は、京急川崎駅前から計画建築物3階まで接続する歩行者デッキを経由する動線を主に利用する計画である。なお、隣接再開発事業が竣工するまでの期間（以下「隣接再開発事業竣工前」という。）は、計画建築物1階から出入りする動線を計画している。

駐車場計画

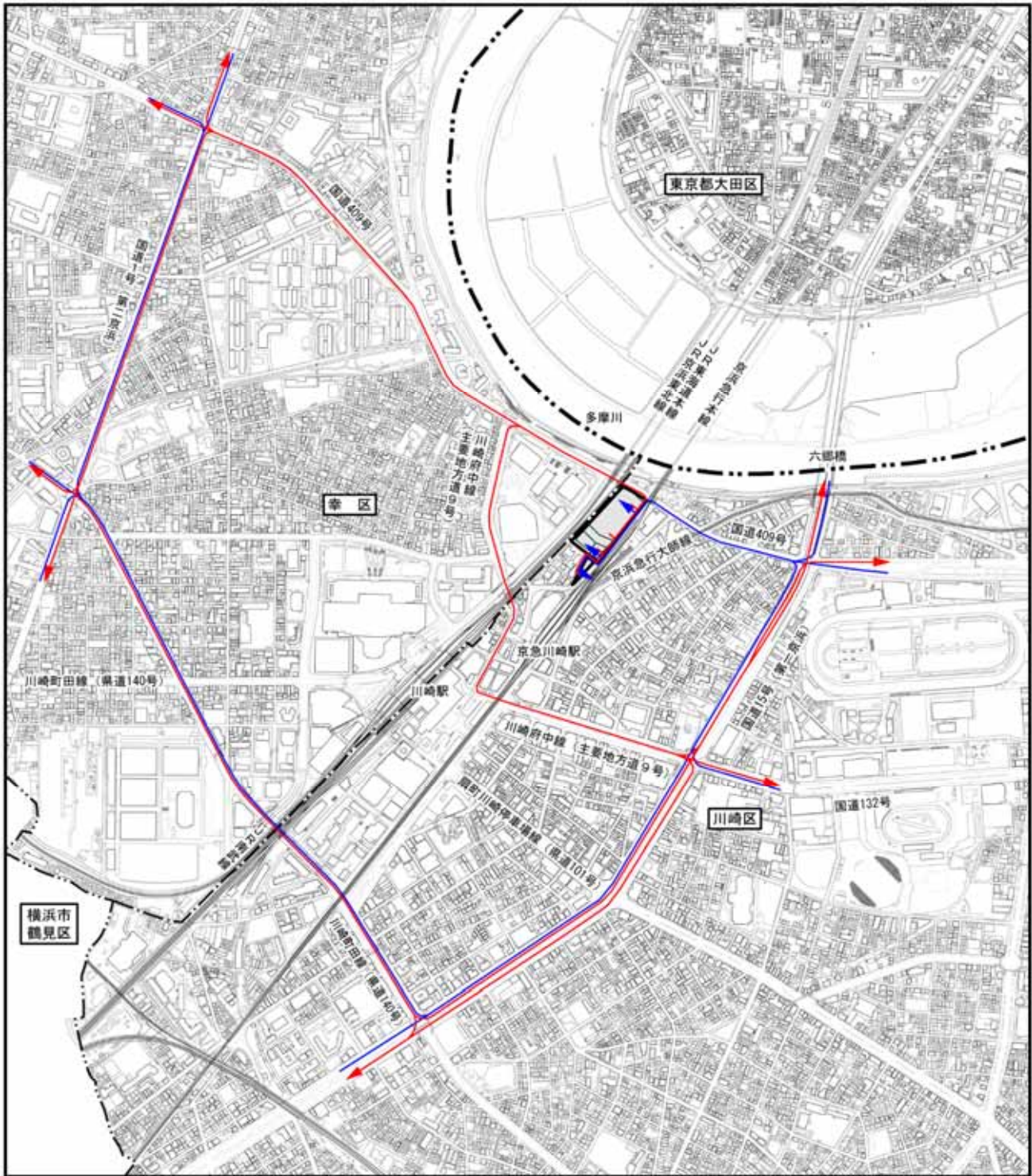
アリーナ敷地は計画建築物1階に自走式駐車場を設置し、駐車場台数は約17台（荷捌き^注用：約12台、身障者用：約5台）を確保する計画である。また、三角地敷地は計画建築物1階に自走式駐車場を設置し、駐車場台数は約2台を確保する計画である。

駐輪場計画

アリーナ敷地は駅前本町8号線に面して駐輪場、計画建築物1階に自動二輪車駐車を設置し、駐輪場台数は約100台、自動二輪車駐車場台数は約10台を確保する計画である。

なお、三角地敷地には駐輪場及び自動二輪車駐車場は設置しない。

注) 荷捌き車両は、宿泊、商業及び温浴のサービス車両（大型貨物車、小型貨物車）に加え、興行開催時の搬出入車両（10tクラスの大型貨物車を含む）を想定している。



凡 例








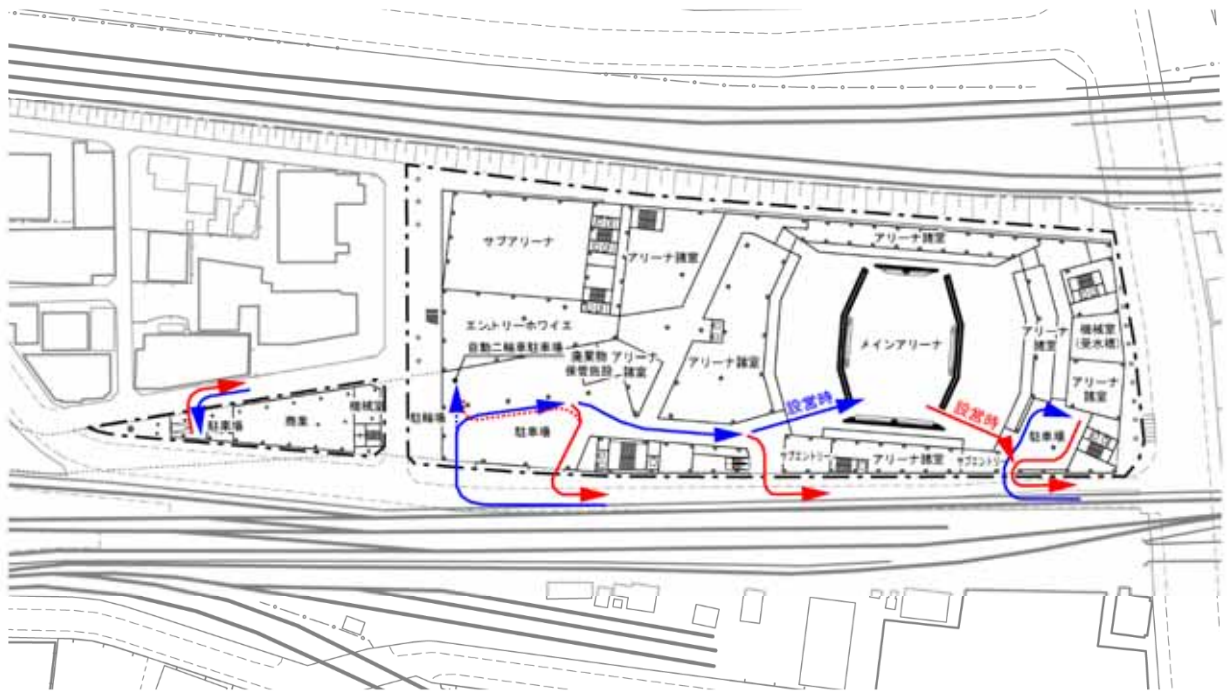
- | | | | |
|---|-------|---|-----------|
|  | 計画地 |  | 走行経路 (入庫) |
|  | 計画建築物 |  | 走行経路 (出庫) |
|  | 都県界 | | |
|  | 市 界 | | |
|  | 区 界 | | |

図1-12(1) 自動車動線計画図

1 : 15,000
0 150 300 450m



1階平面図

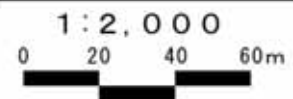


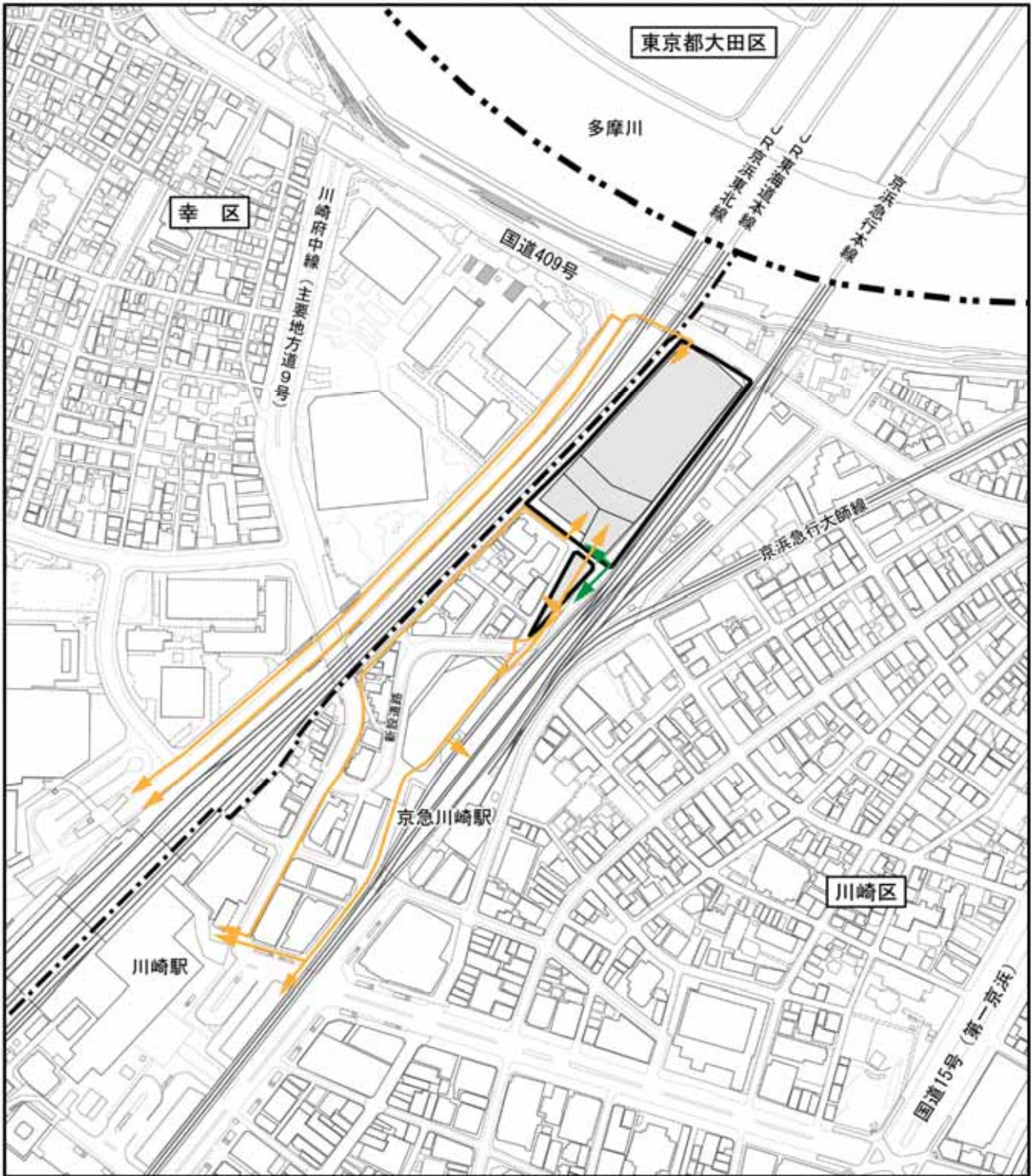
凡 例

- 建築敷地
- 走行経路 (入庫)
- 走行経路 (出庫)

※ は自動二輪車のみの動線を示す。

図1-12(2) 自動車動線計画図 (1階)





凡 例








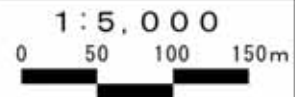
- | | | | |
|---|--------|---|-------|
|  | 計画地 |  | 歩行者動線 |
|  | 計画建築物 |  | 自転車動線 |
|  | 歩行者デッキ | | |
|  | 都県界 | | |
|  | 区 界 | | |

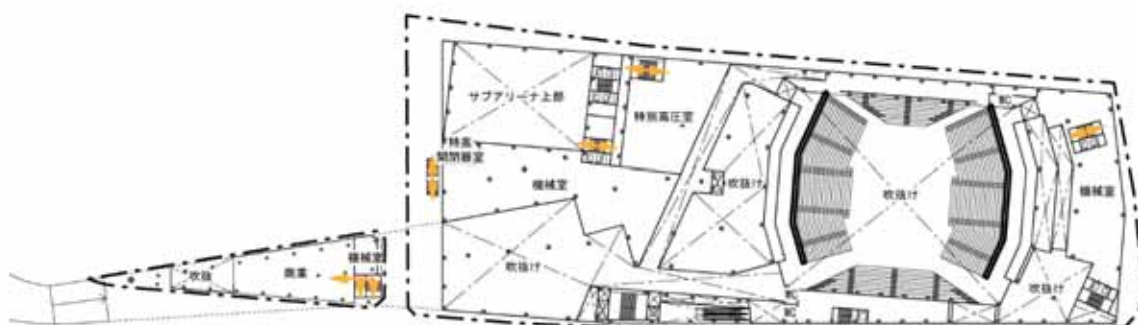
図1-13(1) 歩行者動線計画図 (隣接再開発事業竣工後)



3階平面図



2階平面図



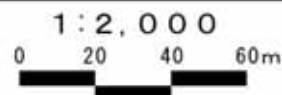
1階平面図

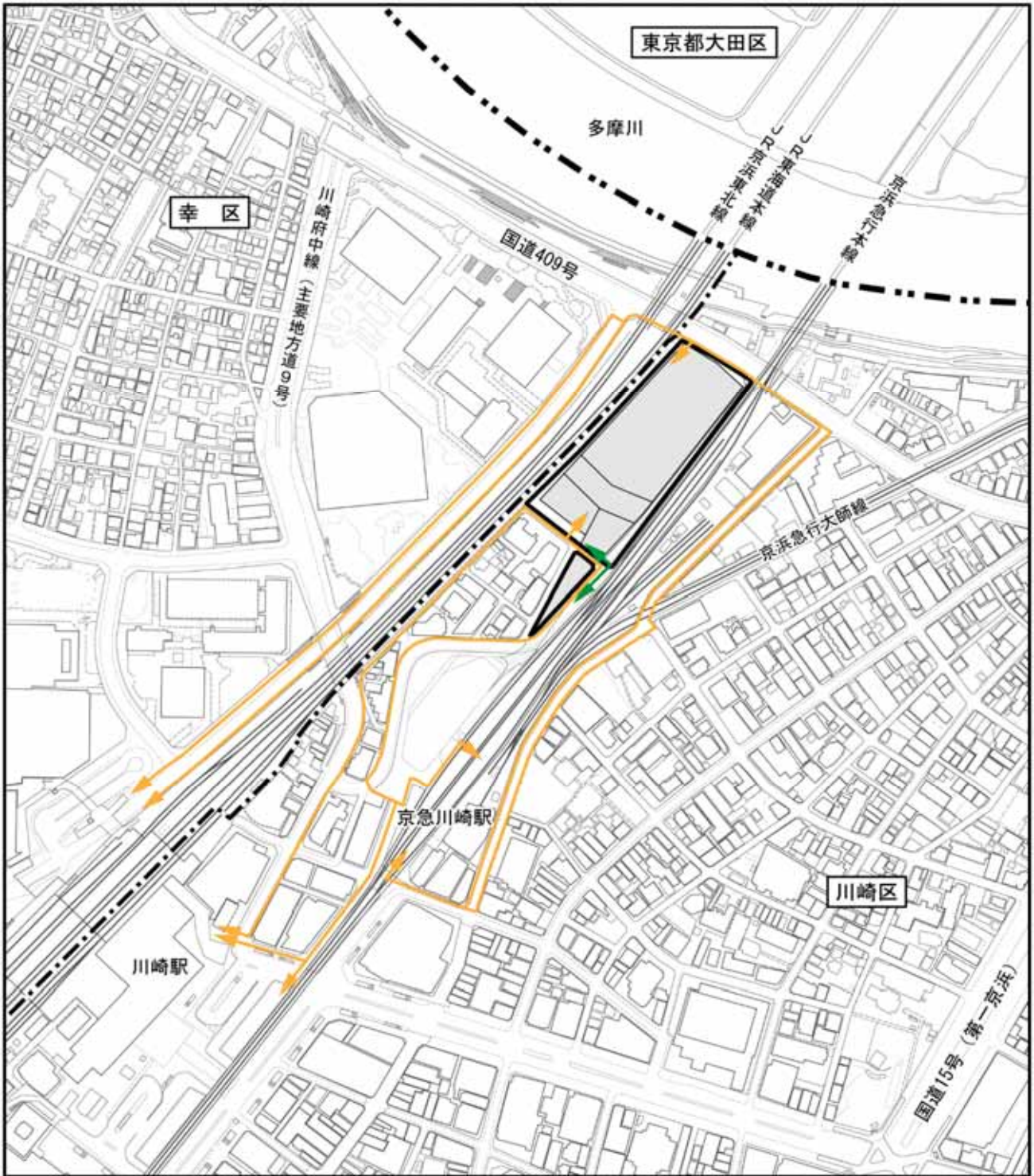


凡 例

- 建築敷地
- ⇄ 歩行者動線
- ⇄ 自転車動線

図1-13(2) 歩行者動線計画図 (隣接再開発事業竣工後、1～3階)





凡 例








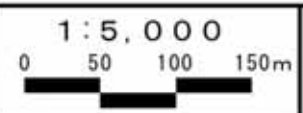
- | | | | |
|---|--------|---|-------|
|  | 計画地 |  | 歩行者動線 |
|  | 計画建築物 |  | 自転車動線 |
|  | 歩行者デッキ | | |
|  | 都県界 | | |
|  | 区 界 | | |

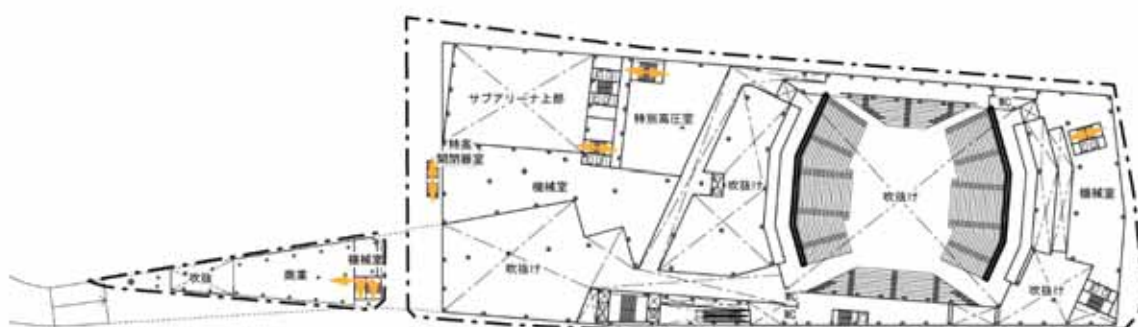
図1-14(1) 歩行者動線計画図 (隣接再開発事業竣工前)



3階平面図



2階平面図



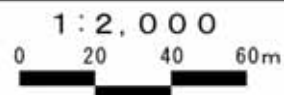
1階平面図



凡 例

- · — 建築敷地
- ⇄ 歩行者動線
- ⇄ 自転車動線

図1-14(2) 歩行者動線計画図（隣接再開発事業竣工前、1～3階）



(9) 供給施設計画

給水施設計画

給水施設計画図は、図1-15に示すとおりである。

計画建築物への給水（上水）は、アリーナ敷地は駅前本町1号線の拡幅道路に敷設される配水管（200mm）より、給水引込管（100mm）にて計画地内に設置する受水槽（1階）に引き込む計画である。三角地敷地は駅前本町8号線に敷設されている配水管より、給水引込管（40mm）にて引き込む計画である。

電力・通信供給計画

電力・通信供給計画図は、図1-16に示すとおりである。

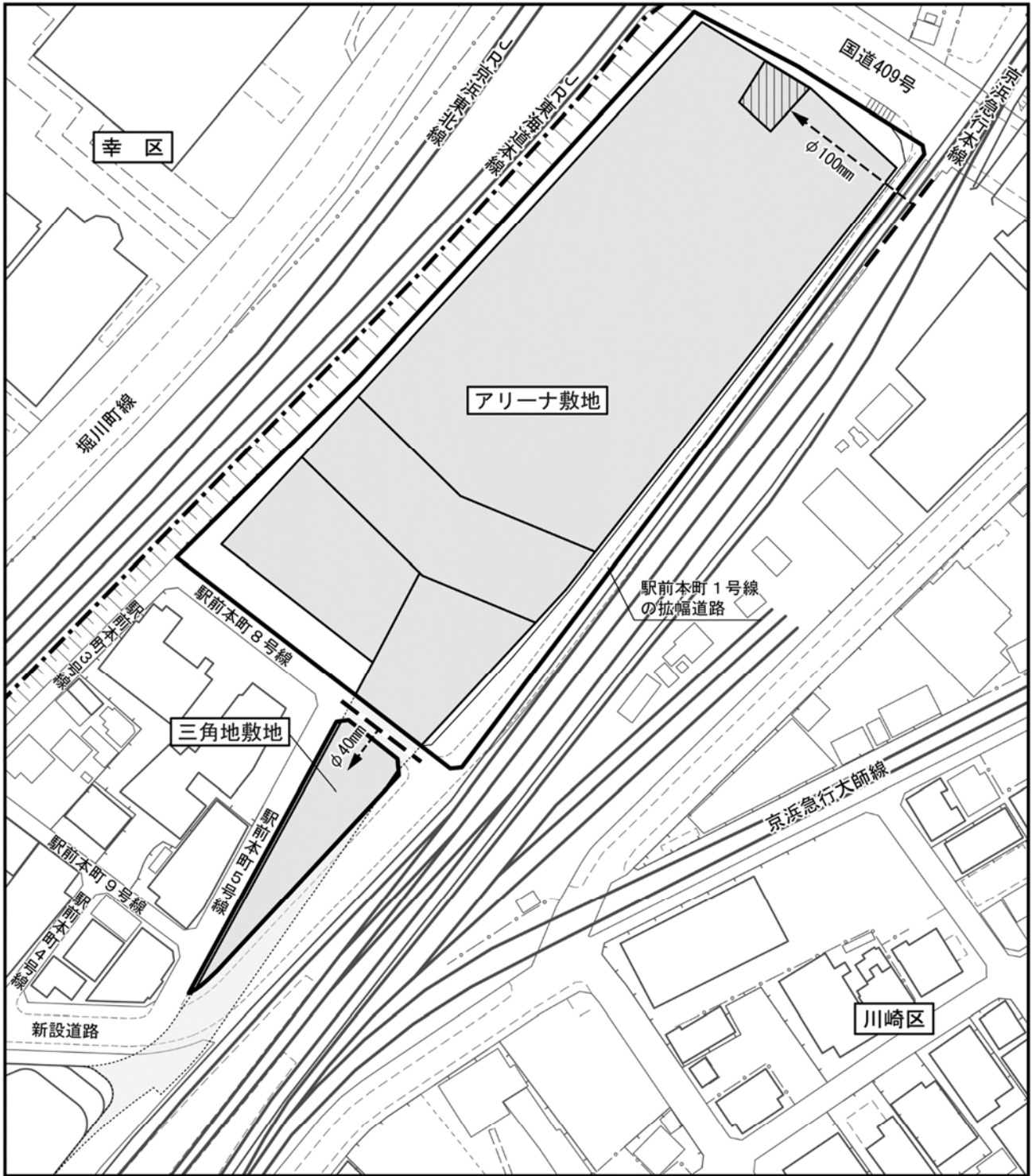
計画建築物への電力の供給は、アリーナ敷地は新設道路に敷設される地中電力ケーブルより、特別高圧で電力を引き込む計画である。三角地敷地は既設の架空電力ケーブルより、高圧で電力を引き込む計画である。

計画建築物への通信の供給は、アリーナ敷地・三角地敷地ともに、既設の架空通信ケーブルより引き込む計画である。

ガス供給計画

ガス供給計画図は、図1-17に示すとおりである。

計画建築物へのガスの供給は、アリーナ敷地は駅前本町1号線に敷設されているガス管より、ガス引込管（100mm）にて中圧で引き込む計画である。三角地敷地は駅前本町5号線に敷設されているガス管より、ガス引込管（75mm）にて中圧で引き込む計画である。



凡例








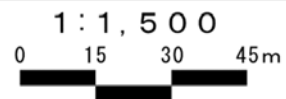
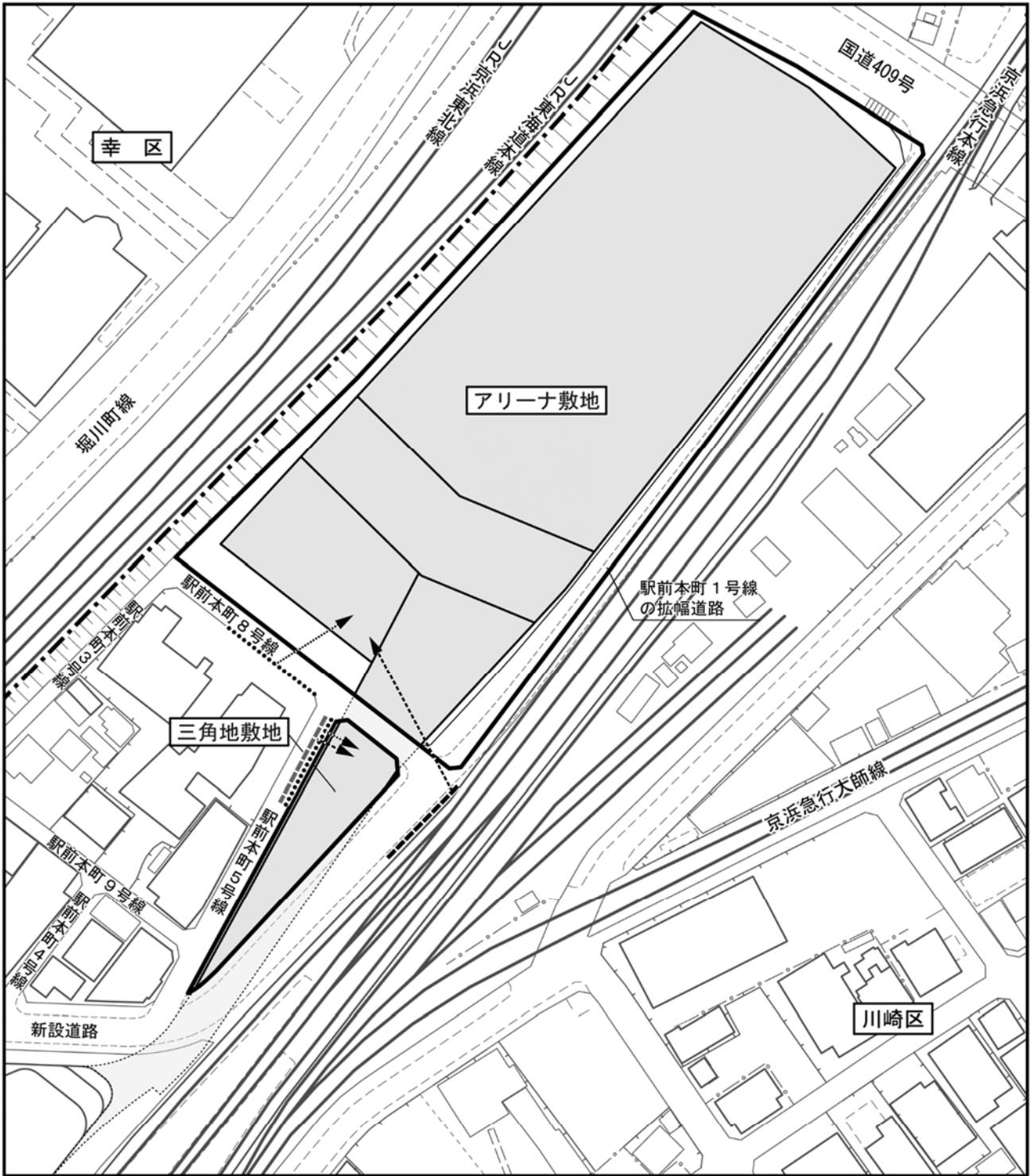
- | | | | |
|---|--------|---|---------|
|  | 計画地 |  | 配水管 |
|  | 計画建築物 |  | 新設給水引込管 |
|  | 歩行者デッキ |  | 受水槽（1階） |
|  | 区界 | | |

図1-15 給水施設計画図





凡 例


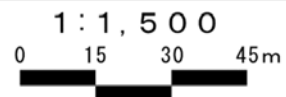
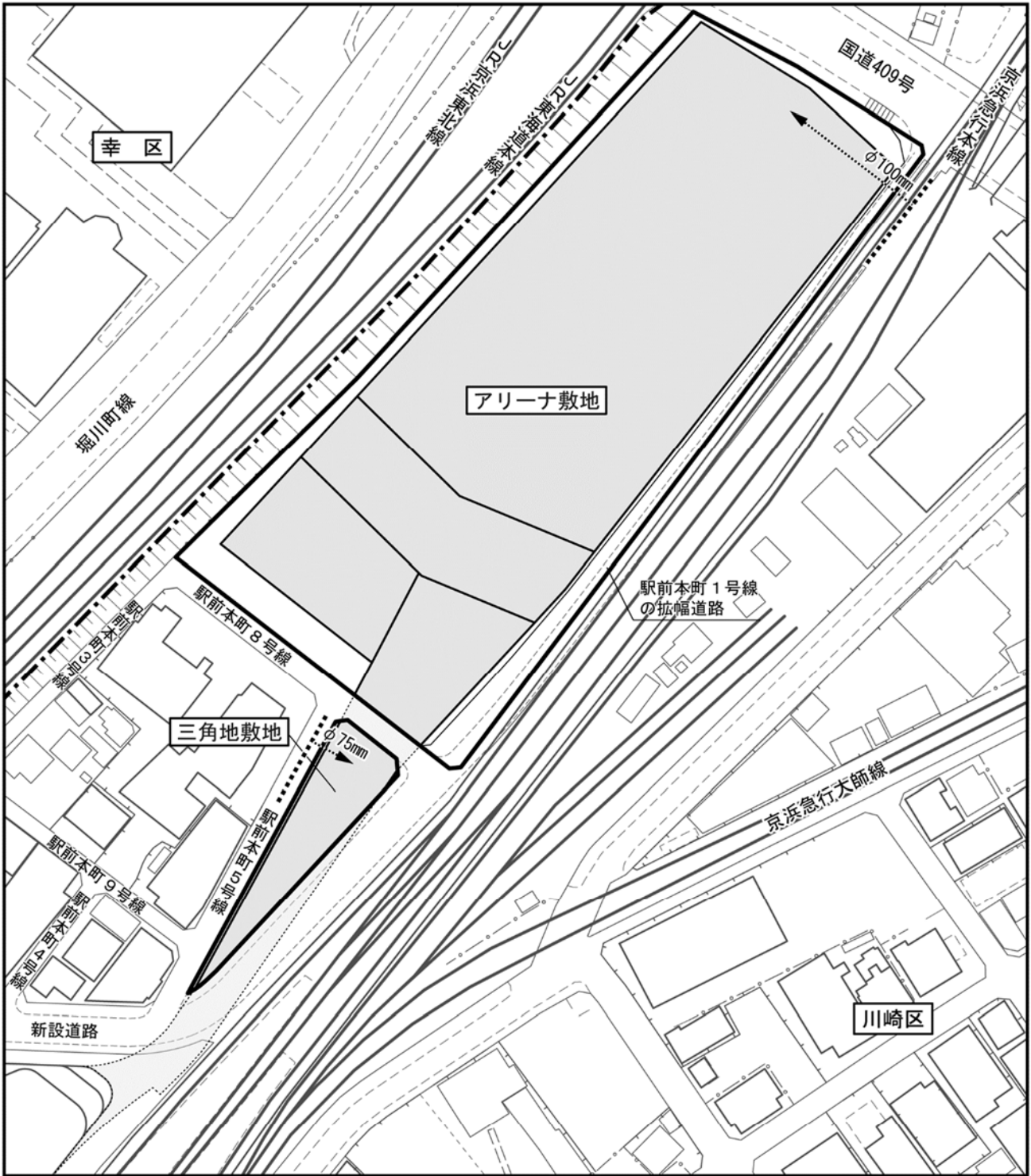
- | | | | |
|---|--------|---|----------|
|  | 計画地 |  | 地中電力ケーブル |
|  | 計画建築物 |  | 架空電力ケーブル |
|  | 歩行者デッキ |  | 新設電力引込線 |
|  | 区 界 |  | 架空通信ケーブル |
| | |  | 新設通信引込線 |

図1-16 電力・通信供給計画図

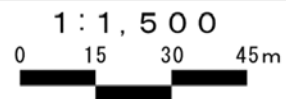




凡 例

- | | | | |
|---|--------|---|--------------|
|  | 計画地 |  | ガス本管 (中圧) |
|  | 計画建築物 |  | 新設ガス引込管 (中圧) |
|  | 歩行者デッキ | | |
|  | 区 界 | | |

図1-17 ガス供給計画図



(10) 排水施設計画

排水施設計画図は、図1-18に示すとおりである。

アリーナ敷地からの汚水は、汚水・雨水配管にて駅前本町1号線及び駅前本町8号線に敷設されている公共下水道（合流式：300mm、350mm）に接続し、放流する計画である。

アリーナ敷地の雨水は、「雨水流出抑制施設技術指針」（平成29年10月改正、川崎市建設緑政局）に基づき、雨水貯留槽（約820m³）をピット階に設置し、排水量を調整しながら、汚水・雨水配管にて駅前本町1号線及び駅前本町5号線に敷設されている公共下水管（合流式：350mm、700mm）に放流する計画である。

三角地敷地からの汚水・雨水は、汚水・雨水配管にて駅前本町5号線に敷設されている公共下水道（合流式：700mm）に接続し、放流する計画である。

(11) 熱源計画

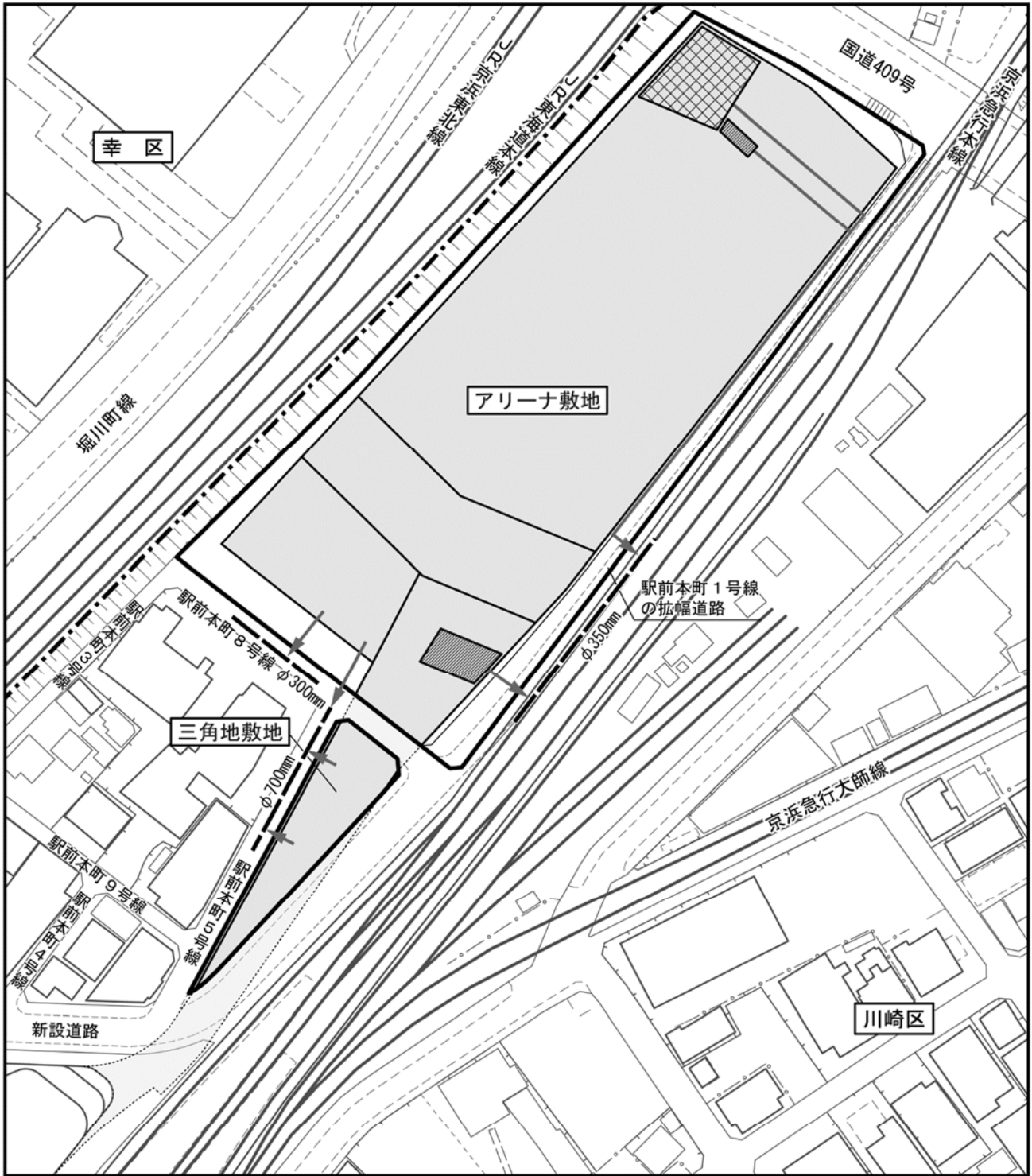
熱源は電力及び都市ガスを併用する計画であり、主な設備機器の概要は表1-8に示すとおりである。

アリーナ敷地の空調は基本的に中央方式とし、防災センターや電気関係の諸室の一部は個別方式とする計画である。設備機器はアリーナ棟2階（機械室）及び屋上、商業棟9階（設備置場）及び屋上に設置する計画である。また、アリーナ敷地の給湯は、アリーナ、宿泊施設及び商業施設は都市ガスによる個別方式とし、温浴施設は都市ガスによる中央方式及び電力による個別方式とする計画である。

三角地敷地の空調は個別方式とし、設備機器は2階に設置する計画である。三角地敷地の給湯は、電力または都市ガスによる個別方式とする計画である。

表1-8 主な設備機器の概要

区 分	用 途	設備機器の種類	
		空 調	給 湯
アリーナ敷地	アリーナ	吸収冷温水機（ガス焚き） インバーターボ冷凍機 空冷ヒートポンプチラー ビル用マルチエアコン	ガス給湯器
	宿 泊		
	商 業		
	温 浴		温水ヒーター（ガス焚き） 電気温水器
三角地敷地	商 業	ビル用マルチエアコン	電気温水器またはガス給湯器



凡 例









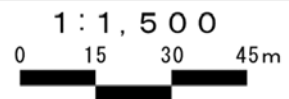
- | | | | |
|---|--------|---|--------------|
|  | 計画地 |  | 公共下水道 (合流式) |
|  | 計画建築物 |  | 新設汚水・雨水配管 |
|  | 歩行者デッキ |  | 汚水槽 (ピット階) |
|  | 区 界 |  | 雨水貯留槽 (ピット階) |

図1-18 排水施設計画図



(12) 廃棄物処理計画

廃棄物保管施設計画図は、図1-19に示すとおりである。

事業系一般廃棄物（紙くず、厨芥等）と産業廃棄物（ガラスくず、金属くず、廃プラスチック類等）を分別した廃棄物保管施設を設置する計画である。

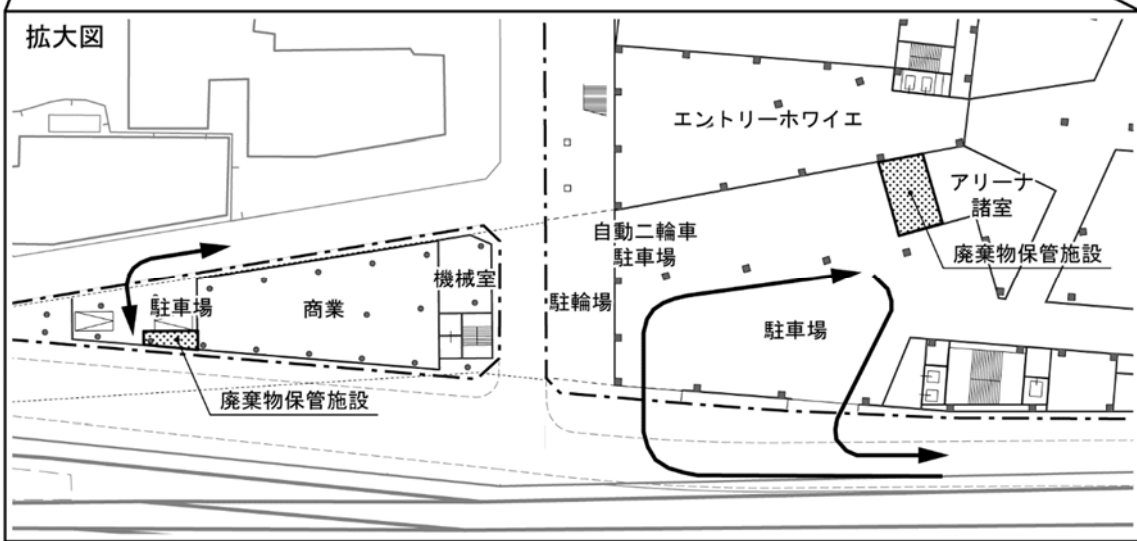
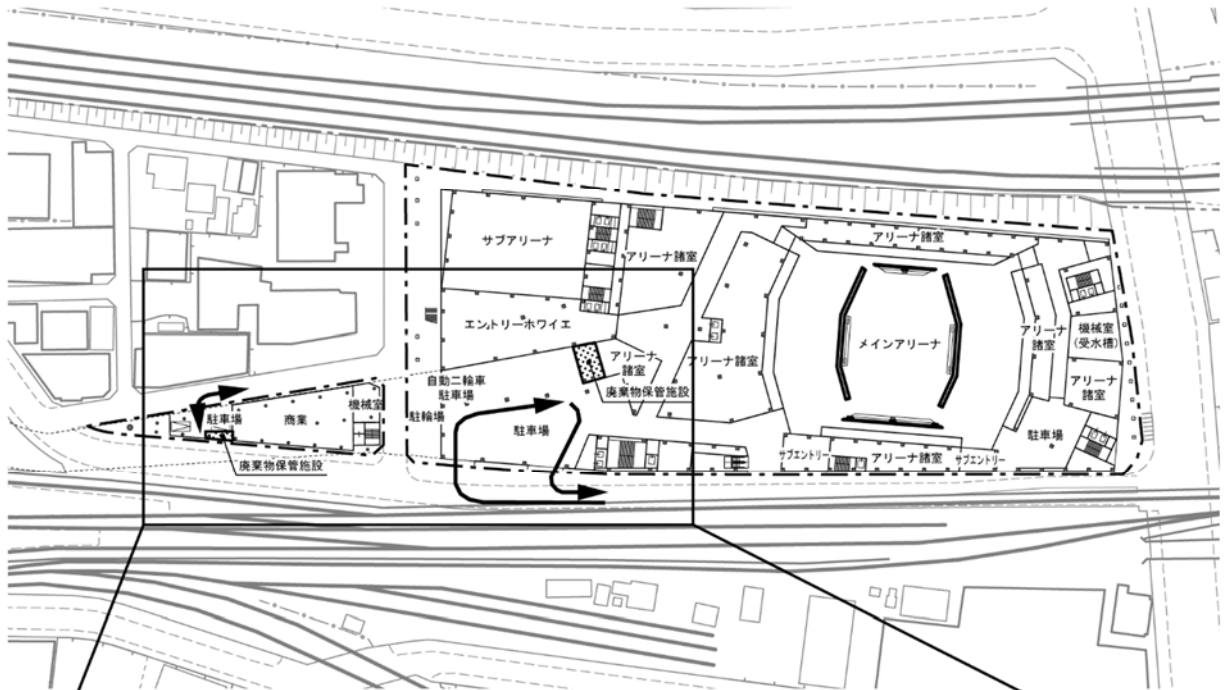
また、事業系一般廃棄物は川崎市の許可を受けた一般廃棄物収集運搬業者等に委託し、産業廃棄物は許可を受けた産業廃棄物収集運搬業者及び産業廃棄物処分業者に委託し、適正に処理する計画である。

(13) 防・消火計画

防・消火計画図は、図1-20に示すとおりである。

消防水利は、新設及び既設の消火栓の利用により、有効消防水利を充足させる計画である。また、アリーナ敷地は、防火水槽（約40m³）をピット階に設置する計画である。

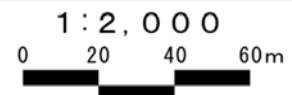
1階平面図

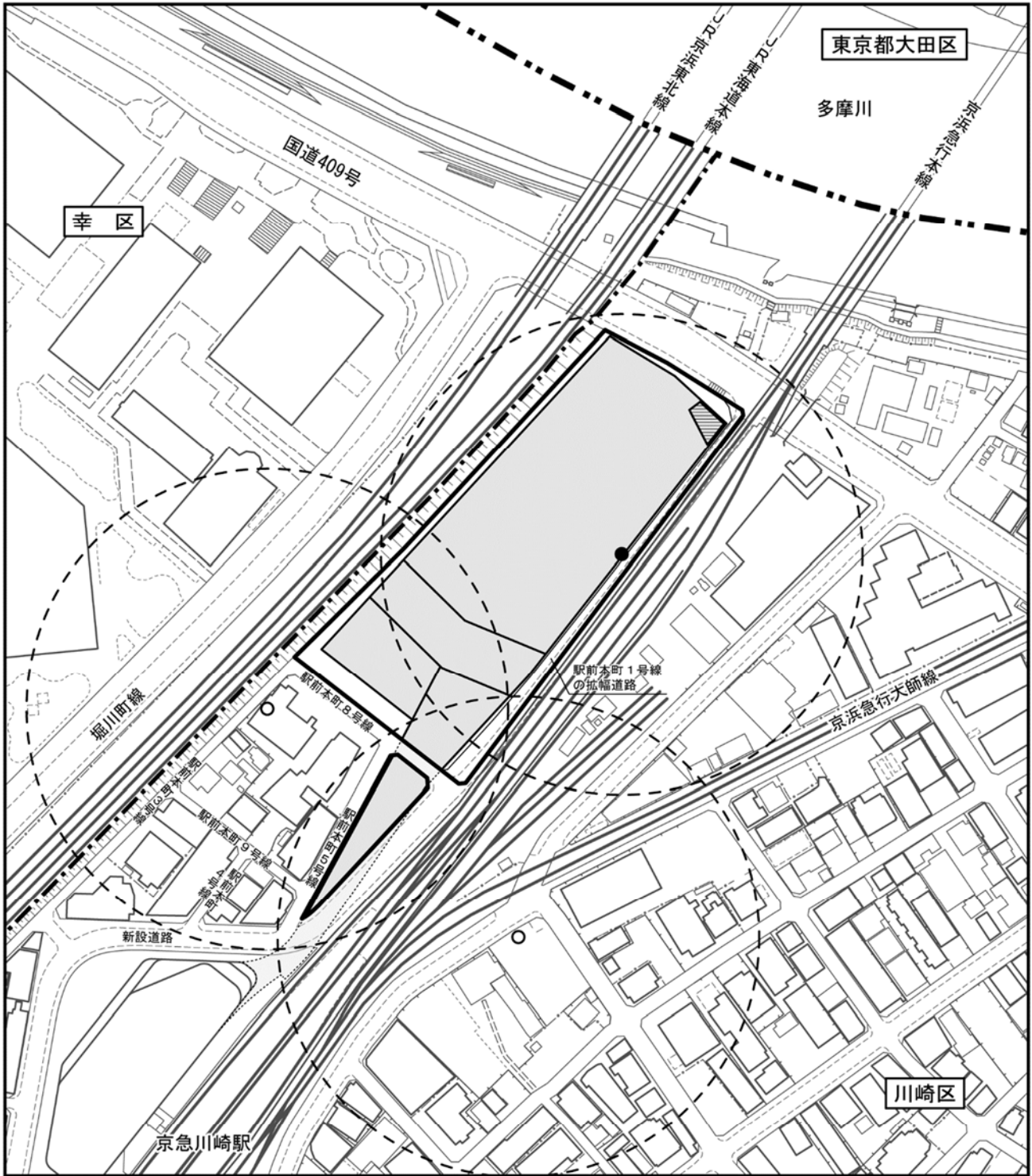


凡 例

- 建築敷地
- 廃棄物保管施設
- ➔ 廃棄物収集運搬車動線

図1-19 廃棄物保管施設計画図





凡 例


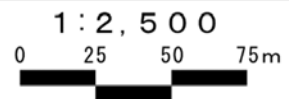
- | | | | |
|---|--------|---|------------------|
|  | 計画地 |  | 新設消火栓 |
|  | 計画建築物 |  | 既設消火栓 |
|  | 歩行者デッキ |  | 消火栓受持範囲 (半径100m) |
|  | 都県界 |  | 防火水槽 (ピット階) |
|  | 区 界 | | |

図1-20 防・消火計画図



(14) 施工計画

工事概要

本事業の工種別工事内容及び主な建設機械は表1-9に、工事工程は表1-10に、工事ステップ図は図1-21(1)～(2)に示すとおりである。

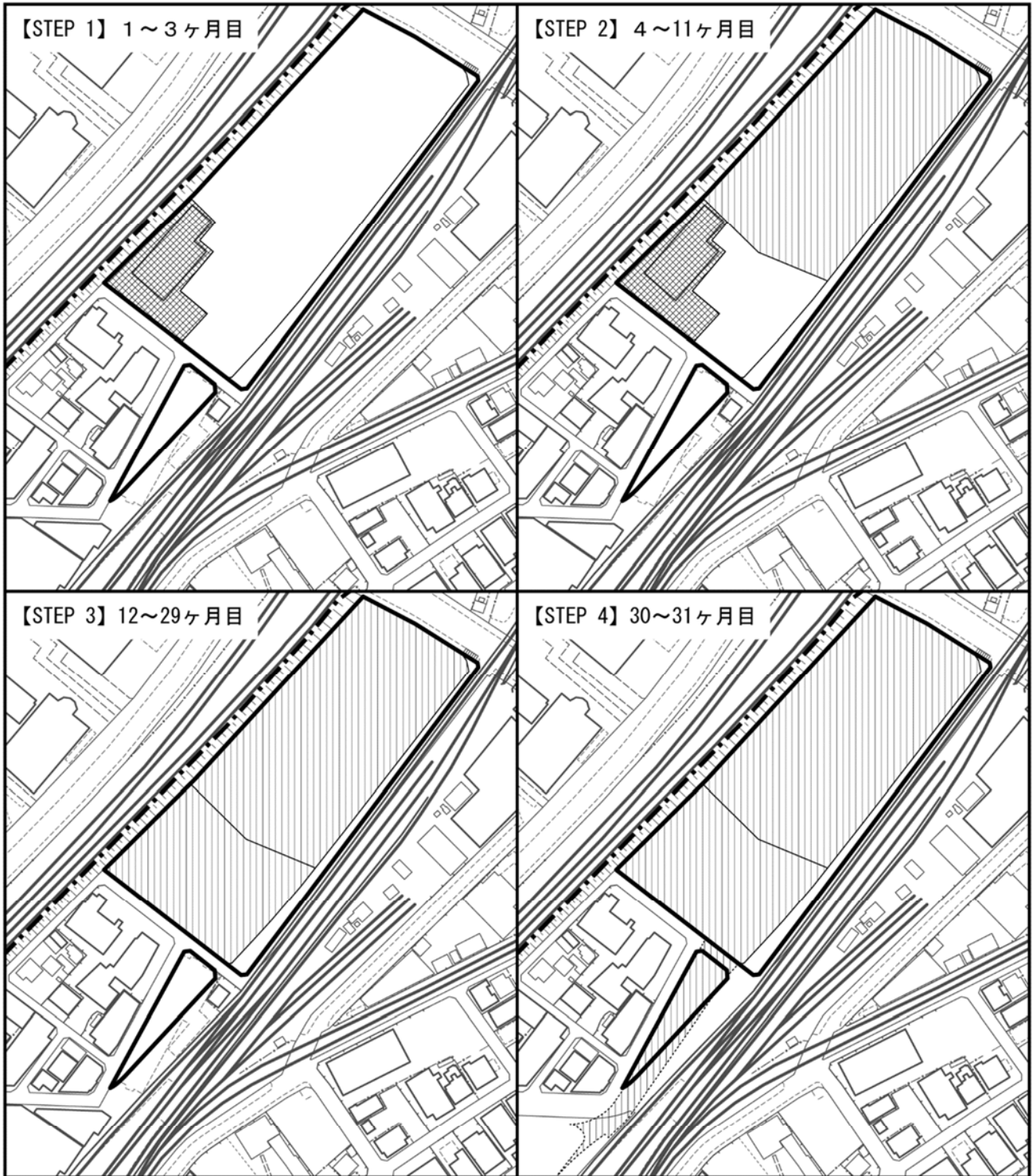
本事業の工事期間は、約41ヶ月を予定している。工事時間帯は、原則として日曜日を除く午前8時から午後7時までとし、前後1時間程度は工事のための準備または片付け等を行う場合がある。ただし、騒音及び振動を伴わない作業、コンクリート打設等の工事の性質上、作業の中断が困難である場合、あるいは天候等の事情により作業時間・日程に変更が生じる場合は、事前に看板等により周知を行い、周辺環境に配慮した上で工事を行う。

また、鉄道敷に近接した場所での工事等では、安全性等を考慮し、夜間に工事を行う場合がある。その際には、事前に看板等により周知を行い、周辺環境に配慮した上で工事を行う。

なお、本事業の工事期間中に、計画地南側で計画されている隣接再開発事業の工事も行われる予定であり、工事実施にあたっては隣接再開発事業と連携しながら、周辺環境に配慮した上で工事を行う。

表1-9 工種別工事内容及び主な建設機械

工種	工事内容	主な建設機械
準備・仮設工事	仮囲い、工事事務所、仮設設備設置 タワークレーン組立・撤去	バックホウ、クローラクレーン、 クレーン車
解体工事	内装解体工事、建屋解体工事、 解体ガラ搬出、整地等	バックホウ、ブルドーザ、 油圧式破碎機、クレーン車
山留工事	山留壁構築、汚泥搬出等	アースドリル、CD掘削機、 発電機、SMW三軸掘削機、 バックホウ、クローラクレーン、 クレーン車
杭工事	杭打ち、汚泥搬出等	アースドリル、発電機、 バックホウ、クローラクレーン、 クレーン車
掘削工事	掘削、残土搬出等	バックホウ、クローラクレーン、 クレーン車
基礎躯体工事 地上躯体工事	鉄骨配筋、コンクリート打設、 鉄骨建方、接合等	発電機、クローラクレーン、 クレーン車、コンクリートポンプ車、 生コン車、タワークレーン
外装・内装工事	外装・内装仕上げ等	発電機、クローラクレーン、 クレーン車、仮設エレベーター
設備工事	設備機器設置等	クレーン車、仮設エレベーター
外構・道路工事	舗装、植栽、外構設備設置等	発電機、バックホウ、ブルドーザ、 クレーン車
検査等	試運転、検査等	-

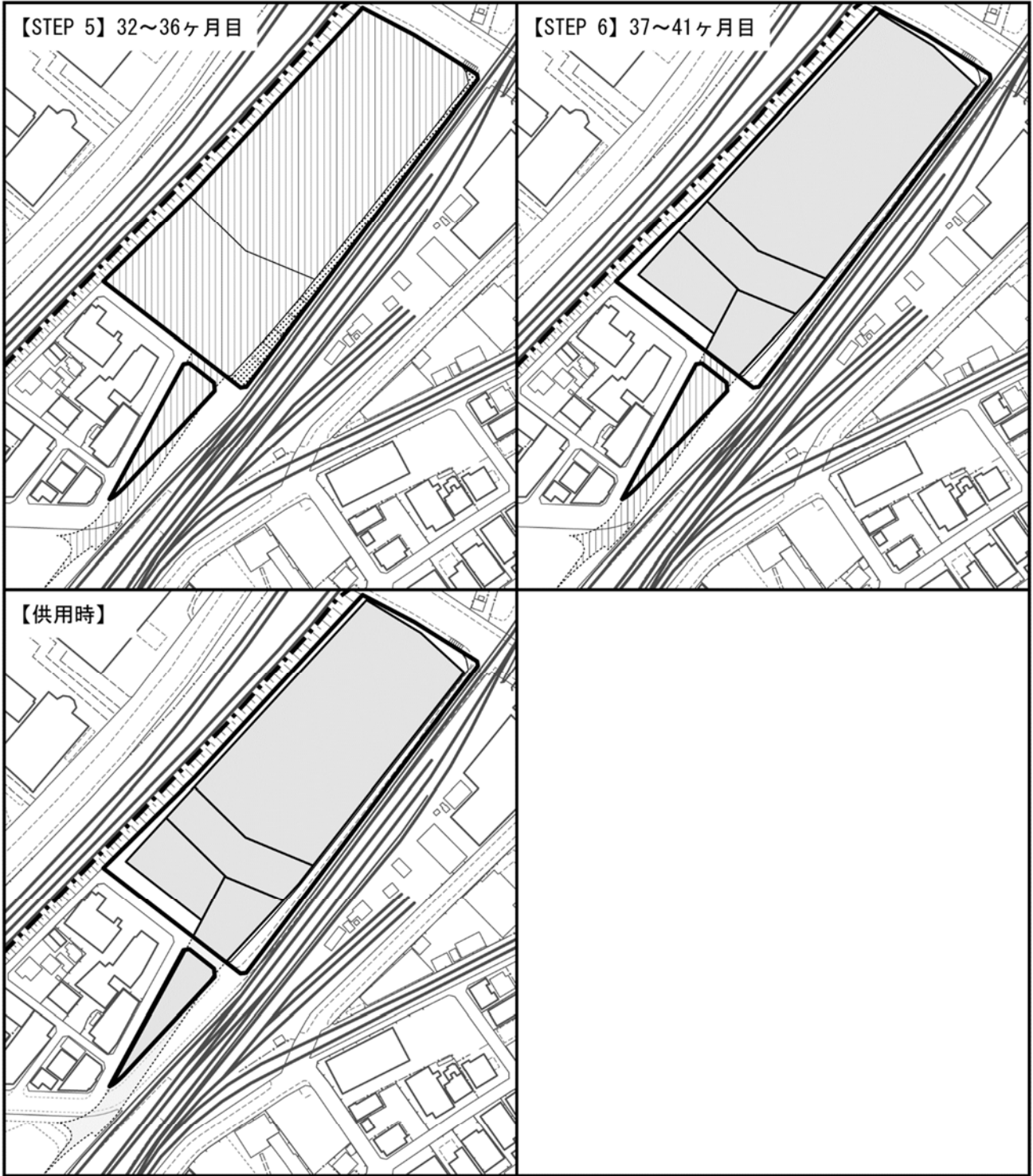


凡 例

- | | | | |
|---|-----|---|------|
|  | 計画地 |  | 解体工事 |
|  | 区 界 |  | 建築工事 |

図1-21(1) 工事ステップ図 (工事開始 1～31ヶ月目)





凡 例


- | | | | |
|---|-----|---|--------|
|  | 計画地 |  | 建築工事 |
|  | 区 界 |  | 道路工事 |
| | |  | 計画建築物 |
| | |  | 歩行者デッキ |

図1-21(2) 工事ステップ図 (工事開始32～41ヶ月目)



工事用車両

工事用車両の主な走行経路^{注)}は図1-22に示すとおり、国道409号等を利用する計画である。なお、国道409号と駅前本町1号線の交差点には、交通整理員を配置する計画である。

仮設防災計画

仮設防災計画図は、図1-23(1)～(2)に示すとおりである。

工事中は工事区域の外周に鋼製の仮囲い(高さ3m)またはフェンスバリケード(高さ1.8m)を設置し、アリーナ敷地の仮設ゲートは駅前本町1号線に面して3ヶ所、駅前本町8号線に面して1～2ヶ所、三角地敷地の仮設ゲートは新設道路に面して1ヶ所設置する計画である。なお、仮設ゲート付近には、交通整理員を配置する計画である。

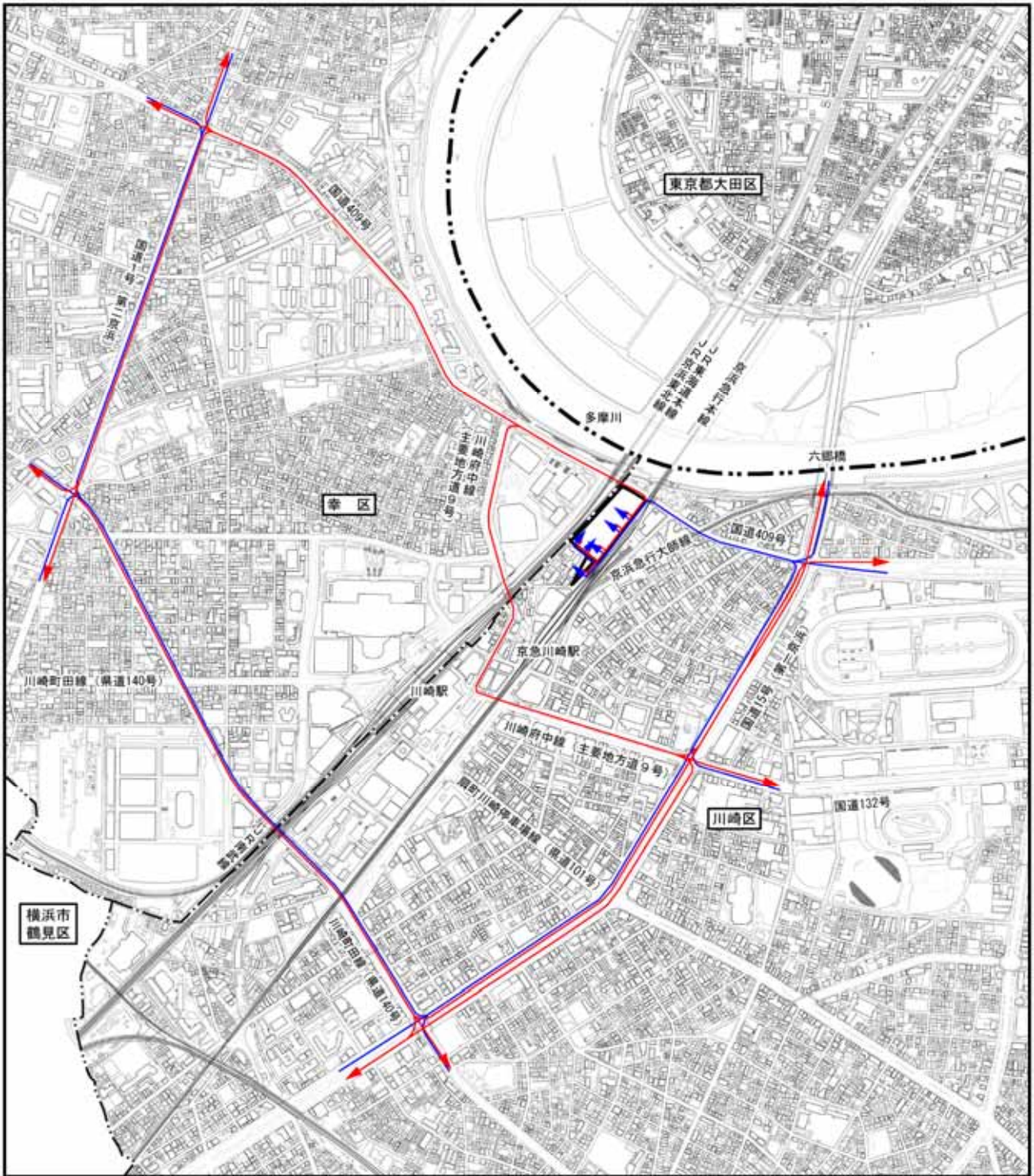
また、鉄道敷沿いは、線路防護網を設置する計画である。

廃棄物処理計画

工事中に発生する産業廃棄物は、「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律」(平成12年5月、法律第104号)等の関係法令に基づき、発生抑制に努めるとともに、分別を徹底し、可能な限り再資源化を図る。

また、許可を受けた産業廃棄物収集運搬業者及び産業廃棄物処分業者に委託し、適正に処理する計画である。

注) 工事用車両の走行経路のうち、大型車規制がかかっている道路については、本事業の工事用車両に限り解除可能であることを確認した上で設定した。



凡 例


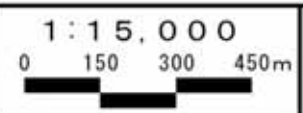
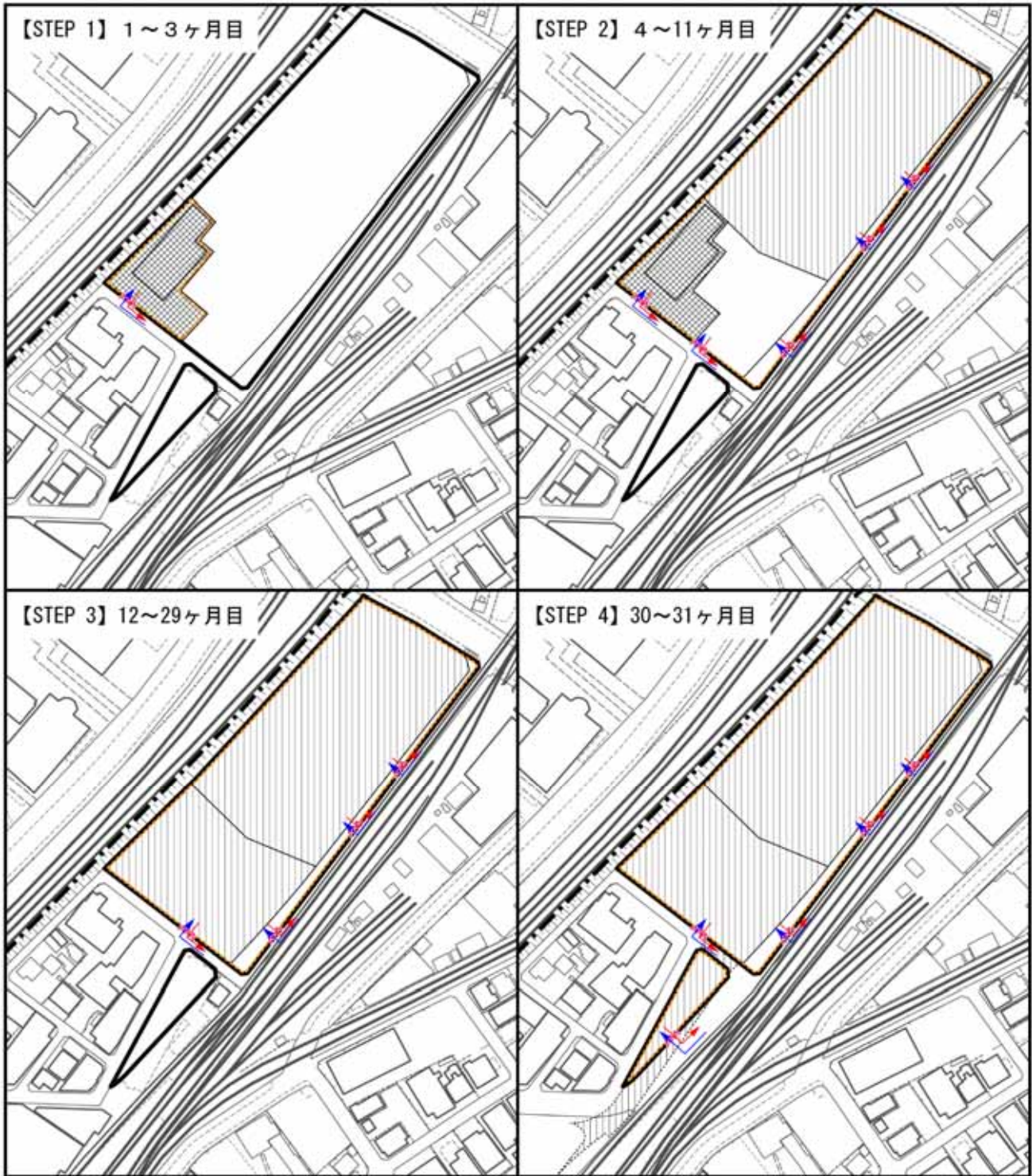
- | | | | |
|---|-----|---|-----------|
|  | 計画地 |  | 走行経路 (搬入) |
|  | 都県界 |  | 走行経路 (搬出) |
|  | 市 界 | | |
|  | 区 界 | | |

図1-22 工事用車両の主な走行経路





凡 例









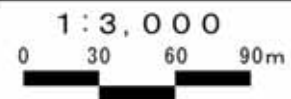
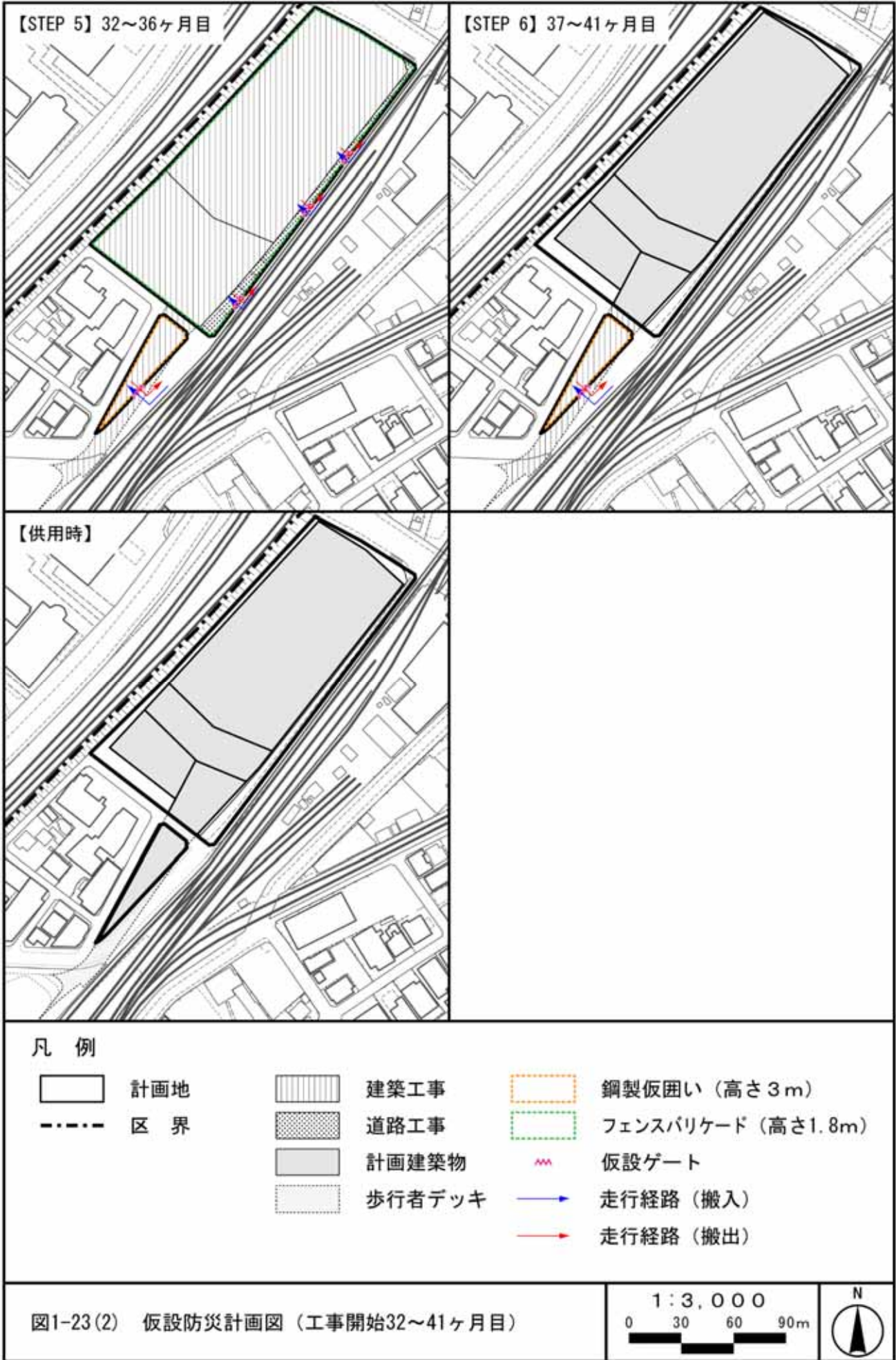
- | | | |
|---|--|---|
|  計画地 |  解体工事 |  鋼製仮囲い（高さ3m） |
|  区 界 |  建築工事 |  仮設ゲート |
| | |  走行経路（搬入） |
| | |  走行経路（搬出） |

図1-23(1) 仮設防災計画図（工事開始1～31ヶ月目）





工事中の安全対策及び環境保全対策

ア 安全対策

- ・工事実施に先立ち、指揮・命令系統を記載した組織表を作り、責任体制を明確にし、外部からの問い合わせに対して適切かつ迅速に対応する。
- ・工事区域の外周に仮囲い等を設置し、歩行者等の安全を確保する。
- ・工事用車両にステッカー等を貼り、他の車両との識別を図る。
- ・工事用車両の出入口等に交通整理員を配置し、歩行者等の安全確保と交通渋滞の発生防止に努める。
- ・作業員に対して新規入場者教育を行い、毎日の作業開始前には危険予知活動や作業前点検を行うことを徹底するなど、労働災害防止に努める。
- ・工事用車両の運転者には随時安全教育を実施し、交通法規を遵守させるとともに、安全運転を徹底させる。

イ 環境保全対策

【建設機械に係る対策】

- ・最新の排出ガス対策型建設機械及び低騒音型建設機械の使用に努める。
- ・低騒音工法及び低振動工法の選択、建設機械の配置への配慮等の適切な工事方法を検討する。
- ・建設機械の集中稼働を行わないよう、工事工程の平準化及び稼働の効率化に努める。
- ・アイドリングストップを周知・徹底するため、工事区域内に看板等を設置し、運転者への注意喚起を行う。
- ・建設機械を使用する前に整備・点検を行い、良好な状態で使用する。
- ・騒音・振動の状況を把握できるよう、騒音・振動計を設置する。

【工事用車両に係る対策】

- ・工事用車両は、最新の規制適合車の使用に努める。
- ・工事用車両の運転者に対して走行経路を周知・徹底するとともに、計画的な運行により影響の低減を図る。
- ・工事用車両の運転者に対して、エコドライブを実施するよう周知・徹底する。
- ・工事用車両の運行が一時的に集中しないよう、工事工程の平準化に努める。
- ・アイドリングストップを周知・徹底するため、工事区域内に看板等を設置し、運転者への注意喚起を行う。
- ・工事用車両を使用する前に整備・点検を行い、良好な状態で使用する。

【その他の対策】

- ・ 粉じんの発生が想定される場合には、散水の実施、粉じん飛散防止シートの設置等、粉じんの飛散防止対策を講じる。
- ・ シートカバーを使用し、出入口でタイヤに付着した泥土の洗浄を行うなど、工事用車両による粉じん飛散を防止する。
- ・ 塗装及び防水等の工事にあたっては、材料及び施工方法を検討し、悪臭の発生抑制に努める。
- ・ 塗装工事にあたっては、低VOC(揮発性有機化合物)塗料等による塗装を指定し、VOCの発生抑制に努める。
- ・ 解体工事時は散水を十分行うとともに、解体する建物の周囲に防音パネルを設置し、粉じんの飛散防止や騒音の低減に努める。
- ・ 鉄道敷に近接した場所での工事等では、安全性等を考慮し、夜間に工事を行う場合があるため、事前に看板等により周知を行い、周辺環境に配慮した上で工事を行う。
- ・ 汚染土壌を計画地外に搬出する場合は、「汚染土壌の運搬に関するガイドライン(改訂第4.1版)」(令和3年5月、環境省)を遵守する。
- ・ 汚染土壌を運搬する場合は、運搬中の荷崩れ及び飛散防止の対策(シートカバー等)を行う。
- ・ 作業員の長靴等に付着した汚染土壌を計画地外へ持ち出さないよう洗浄等を行う。
- ・ 搬出した汚染土壌は、都道府県知事等から汚染土壌処理業の許可を受けた業者等に委託して適正に処理・処分する。
- ・ 本事業の工事期間中に、計画地南側で計画されている隣接再開発事業の工事も行われる予定であり、工事実施にあたっては隣接再開発事業と連携しながら、周辺環境に配慮した上で工事を行う。